

# リケンテクノス株式会社

2023年3月期

決算・経営概況説明会

---

2023年5月19日



**RIKEN** TECHNOS



# 目次

---

## 決算概要

---

## セグメント別概況

---

## 中長期的取り組み



# 1. 決算概要

---

## 決算概要

---

## セグメント別概況

---

## 中長期的取り組み

# 2023年3月期 連結業績サマリー

## | 1.決算概要

(単位：百万円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前期比	増減率	2023年3月期 業績予想(※)
売上高	109,923	123,497	13,574	12.3%	125,000
売上総利益	18,915	20,351	1,436	7.6%	-
営業利益	6,292	7,506	1,214	19.3%	7,100
経常利益	6,889	7,964	1,075	15.6%	7,600
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,941	4,557	616	15.6%	4,000
1株当たり当期純利益(円)	62.47	72.11	9.6	15.4%	63.28
ROS(%)	5.7	6.1	0.4	-	5.7

2023年3月期のナフサ価格：76,600円/KL、平均為替レート：130.78円/USD

※2022年10月31日  
上方修正後

- 原材料価格上昇分の製品価格への転嫁による売上増加及び円安の影響もあり増収・増益
- 売上高は**過去最高**、各段階利益も**過去最高益**

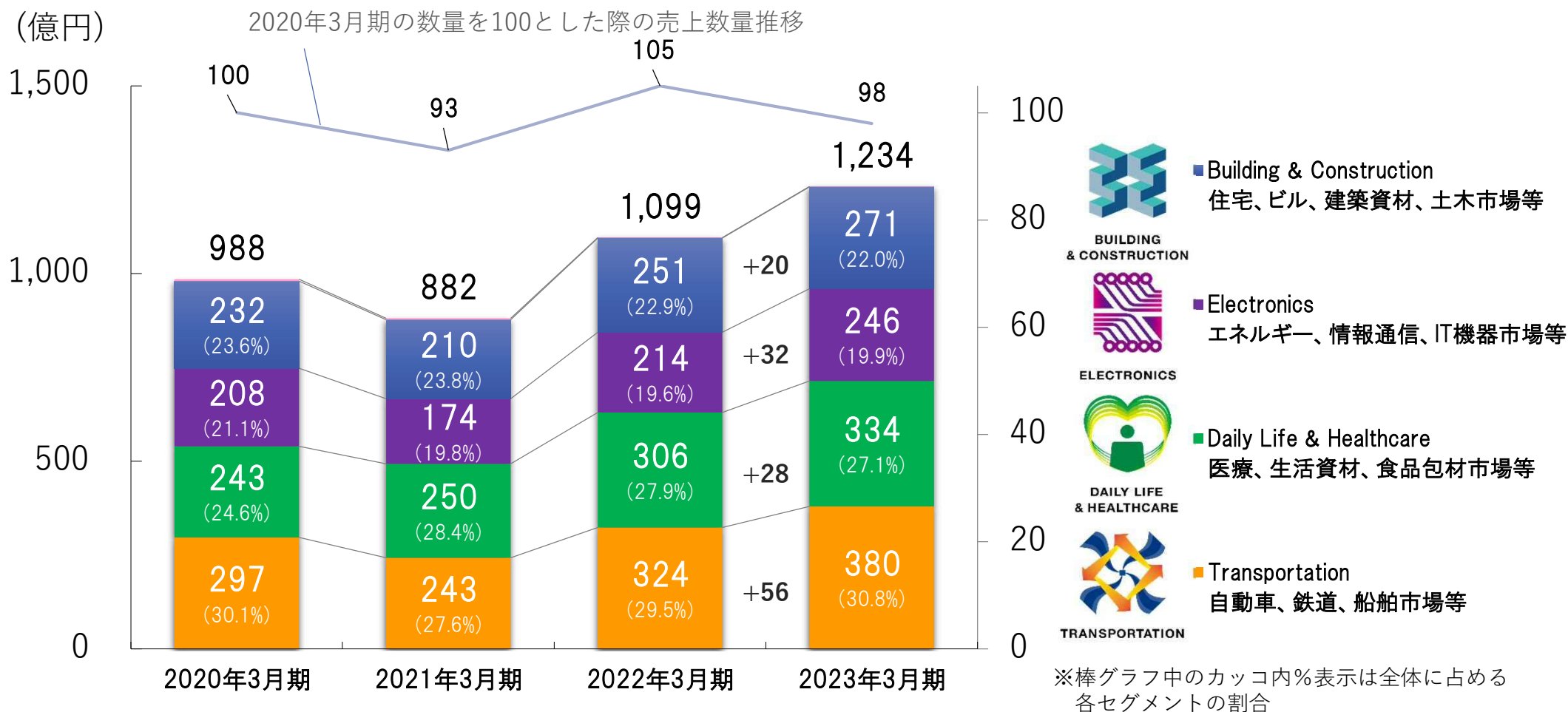
# セグメント別売上高推移

| 1.決算概要

2023年3月期 売上高

**1,234億円**

前期比 **135億円増 (12.3%増)**



➤ 中計戦略通りTRセグメントの占める割合が増加

# 地域別売上高推移

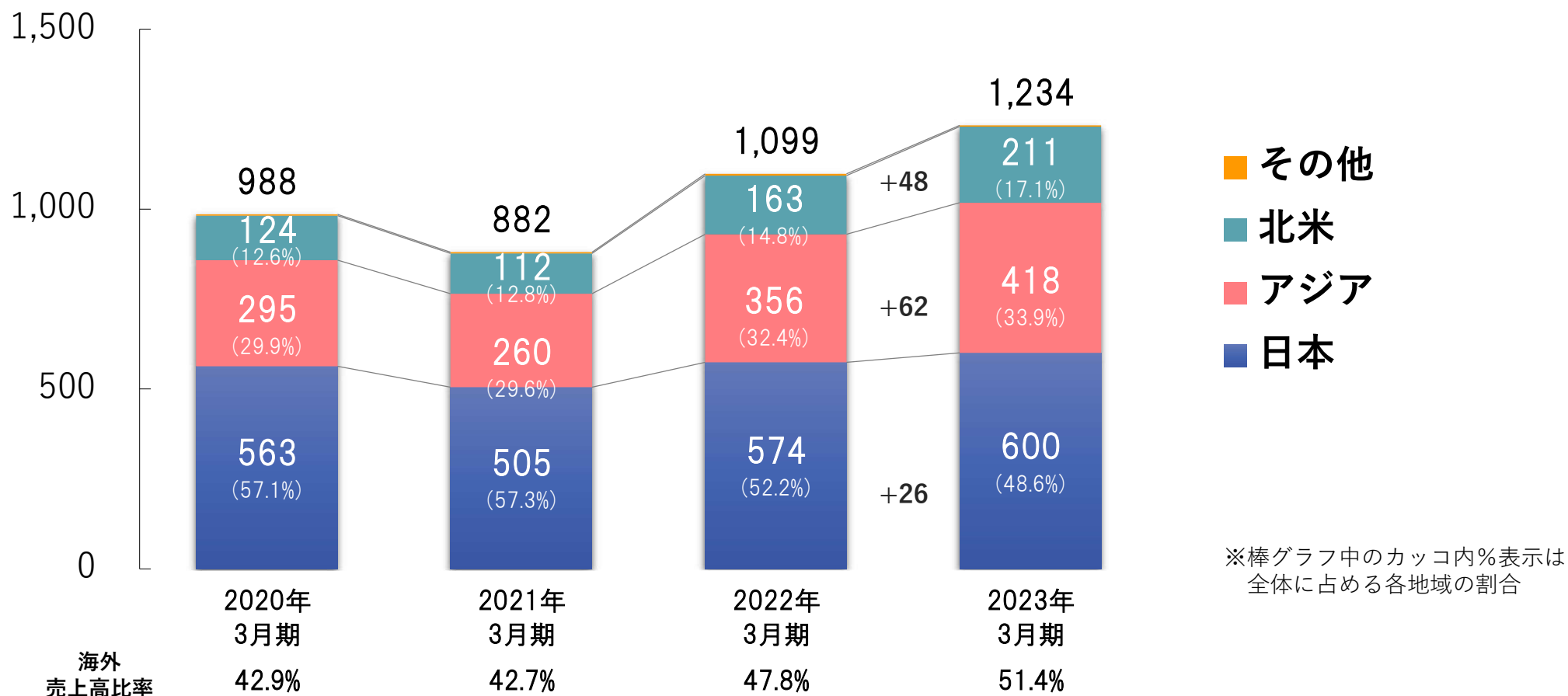
| 1.決算概要

2023年3月期 売上高

**1,234億円**

前期比 **135億円増 (12.3%増)**

(億円)

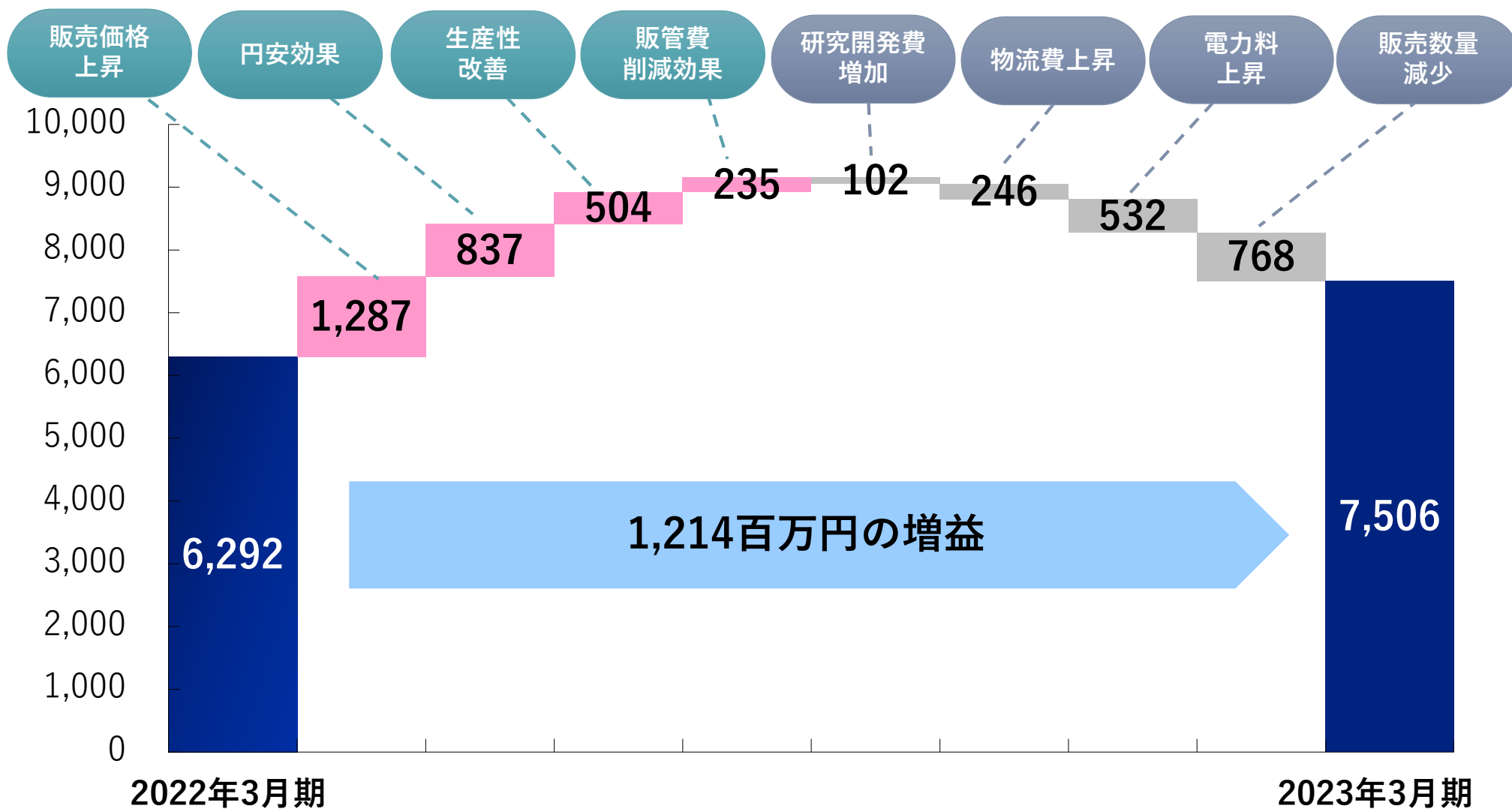


➤ 海外売上高比率は中期経営計画目標である50%超えを達成

# 営業利益 前期比増減要因分析

| 1. 決算概要

(単位：百万円)



# 連結貸借対照表

## 1. 決算概要

(単位：百万円)

	2022年 3月末	2023年 3月末	増減		2022年 3月末	2023年 3月末	増減
流動資産	65,118	71,667	6,549	負債	37,192	39,837	2,645
現金及び預金	20,702	23,481	2,779	流動負債	31,409	33,876	2,467
売上債権	26,344	28,495	2,151	固定負債	5,783	5,961	178
棚卸資産	17,404	18,734	1,330	純資産	65,448	72,165	6,717
その他	668	956	288	資本金	8,514	8,514	-
固定資産	37,522	40,334	2,812	資本剰余金	6,597	6,597	-
有形固定資産	25,136	27,077	1,941	利益剰余金	38,200	41,463	3,263
無形固定資産	2,106	2,286	180	その他	4,449	6,621	2,172
投資その他の資産	10,279	10,970	691	非支配株主持分	7,686	8,969	1,283
資産合計	102,641	112,002	9,361	負債純資産合計	102,641	112,002	9,361

- 営業CF増加により現預金が増加
- 原料価格高騰の影響により売上債権、棚卸資産、仕入債務等が増加
- 有利子負債は10,578百万円



# 連結キャッシュ・フロー計算書

## 1. 決算概要

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	増減
a. 営業活動によるキャッシュ・フロー	4,572	8,524	3,952
b. 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,438	▲3,955	▲1,517
有形固定資産の取得	▲2,280	▲3,675	▲1,395
無形固定資産の取得	▲455	▲311	144
その他	298	31	▲267
c. フリー・キャッシュ・フロー (a+b)	2,134	4,569	2,435
d. 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,946	▲2,335	611
e. その他	407	543	136
現金及び現金同等物の増減額 (c+d+e)	▲403	2,777	3,180
現金及び現金同等物の期末残高	20,677	23,454	2,777

▶ 投資を大きく上回る営業CFの創出により、現預金は増加

# 2024年3月期 連結業績予想

| 1.決算概要

(単位：百万円)

	2023年 3月期 実績	2024年 3月期 業績予想	前期比	
			差額	伸び率
売上高	123,497	128,000	4,503	3.6%
営業利益	7,506	7,600	94	1.3%
経常利益	7,964	7,800	▲ 164	▲2.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,557	4,500	▲ 57	▲1.3%
1株当たり当期純利益(円)	72.11	71.14	▲ 0.97	▲1.3%
ROS(%)	6.1	5.9	▲ 0.2	-
ROE(%)	7.5	7.0	▲ 0.5	-

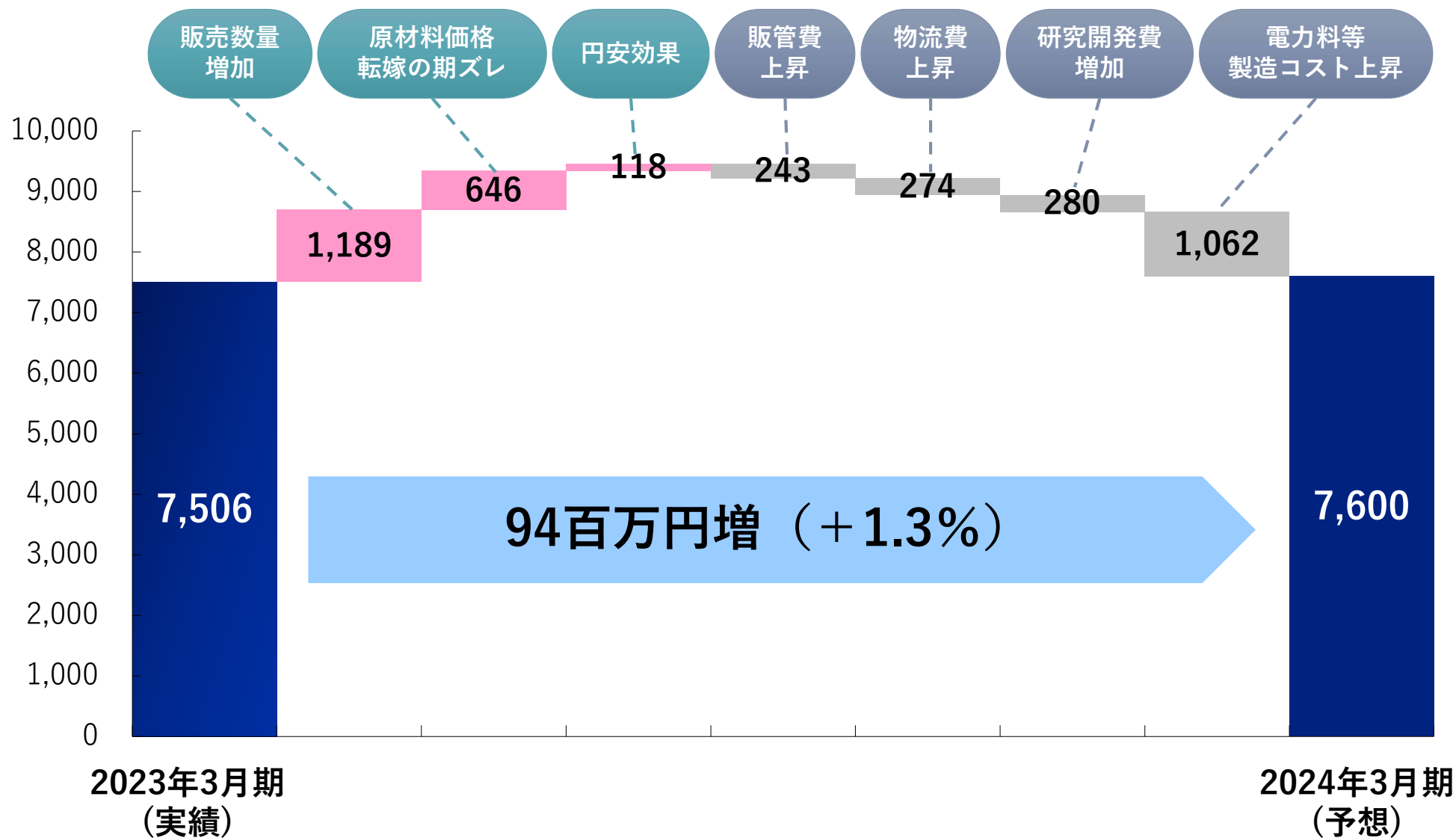
想定国産ナフサ価格：70,000円/KL、想定為替レート：133円/USD

- 売上高は各セグメントで需要が伸長し過去最高
- 電力料を含むコスト上昇の影響もあり、各段階利益は横ばいを予想

# 2024年3月期(予想)営業利益 増減要因分析

| 1. 決算概要

(単位：百万円)





---

決算概要

---

セグメント別概況

---

中長期的取り組み

## 2. セグメント別概況



# Transportation

トランスポーターション



ワイヤーハーネス

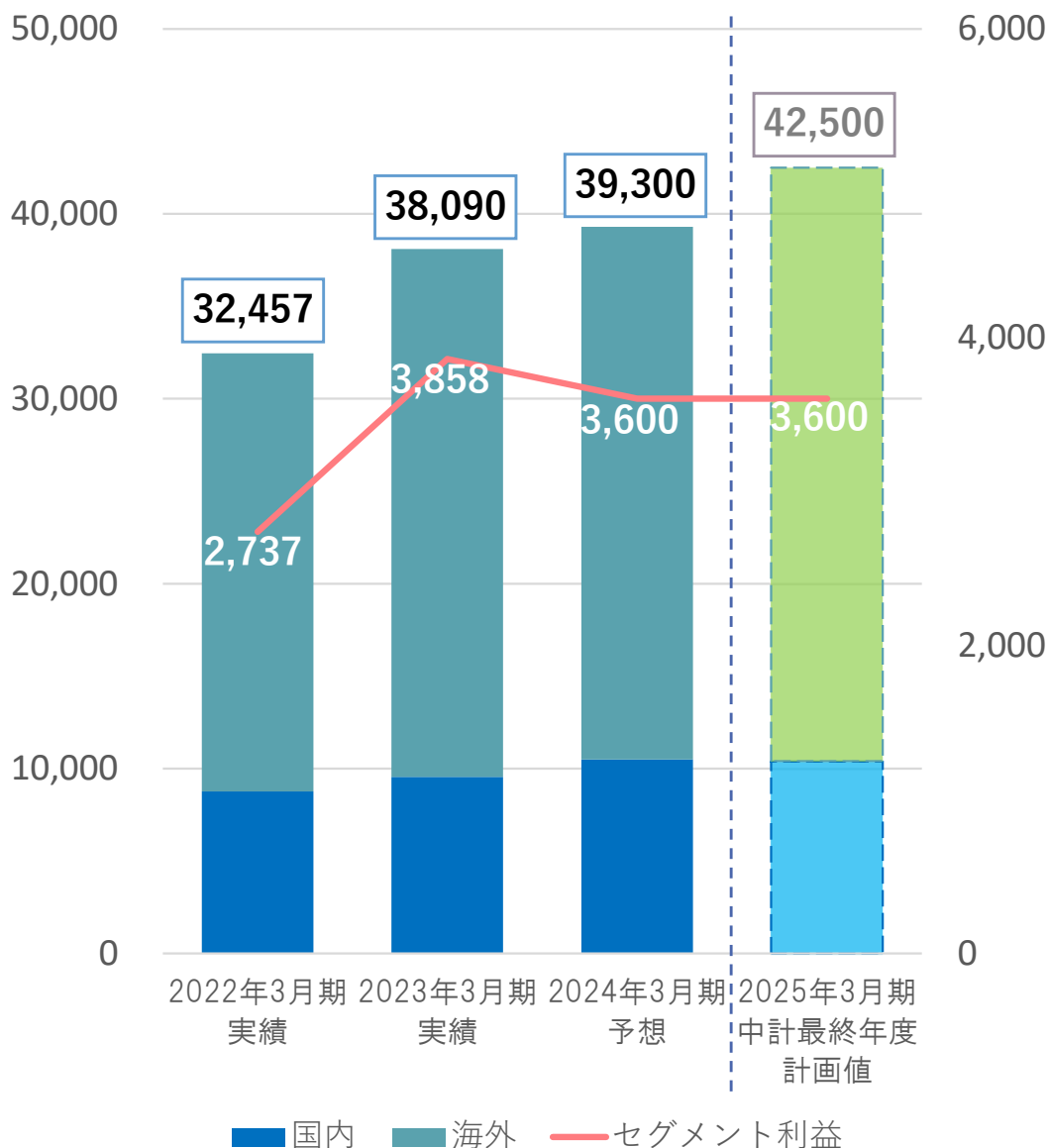


自動車用成形部材

# Transportation



(単位：百万円)



## 2.セグメント別概況

2023年3月期  
通期実績

**5,633**百万円増収 (+17.4%)  
**1,121**百万円増益 (+40.9%)

- 自動車生産は、国内・海外で回復し、原材料価格高騰に伴う製品価格への転嫁もあり、増収
- セグメント利益は、国内・海外での販売が増加したことにより、増益

2024年3月期  
業績予想

**1,210**百万円増収 (+3.2%)  
**258**百万円減益 (△6.7%)

- 自動車生産は、国内・海外で回復し、シール部品・機能部品の拡販により、増収
- セグメント利益は、電力料等製造コスト上昇の影響もあり、減益

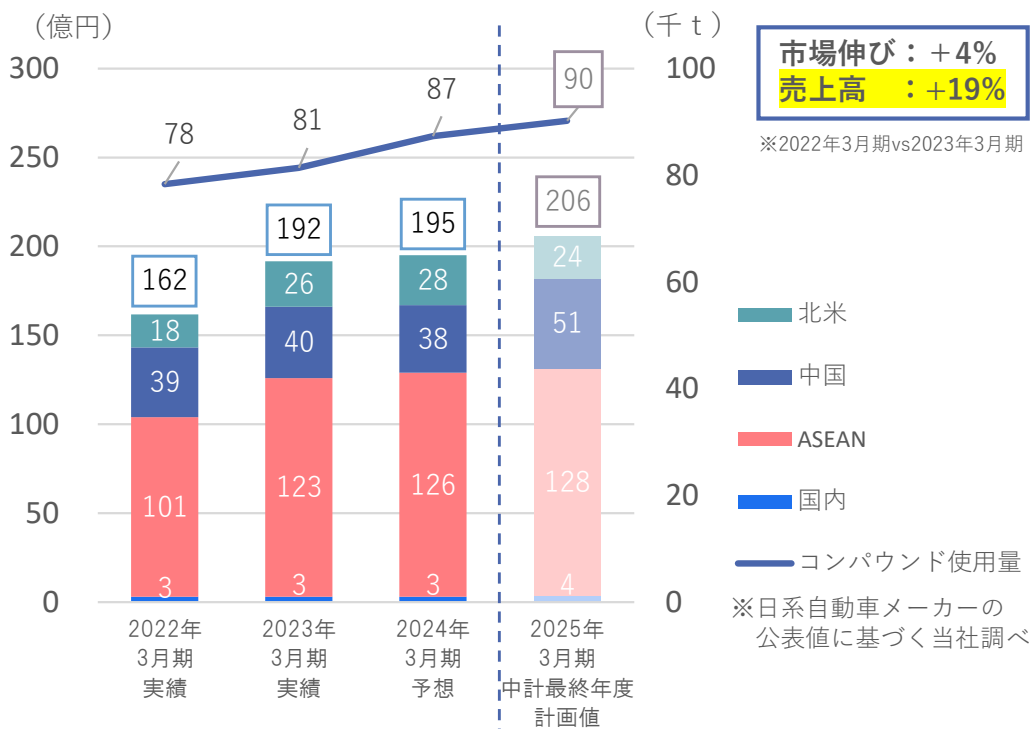
# Transportation



TRANSPORTATION

## 重点分野① ワイヤーハーネス

日系W/Hメーカー世界地域別コンパウンド使用量と当社W/H向けコンパウンド売上高



### 2023年3月期 通期実績

- 原材料価格高騰に伴う製品価格の転嫁もあり、売上高が増加
- 薄肉電線の拡販が進捗

### 2024年3月期 通期施策

- 自動車生産は前年比7%程度伸びると見ており、日系向けでASEANを中心に増量分を取込み
- 薄肉電線の更なる拡販

## 2.セグメント別概況

## 重点分野② 自動車用成形部材

日系自動車生産台数と自動車用成形部材向けコンパウンド売上高



### 2023年3月期 通期実績

- 日系大手シール部品メーカー向けに、日本・ASEAN・中国・インド等で拡販
- 日本国内で顧客に採用された機能部材を世界に展開
- 機能部品（外装INJ・EV向け部材）等新規案件獲得が進捗

### 2024年3月期 通期施策

- モール・シール部材の拡販（日系顧客への採用拡大と海外展開）
- 機能部品の拡販と海外展開、素材転換・ゴム代替の推進



# Daily Life & Healthcare

デイリーライフ&ヘルスケア



医療用 (PVC)



ゴム代替



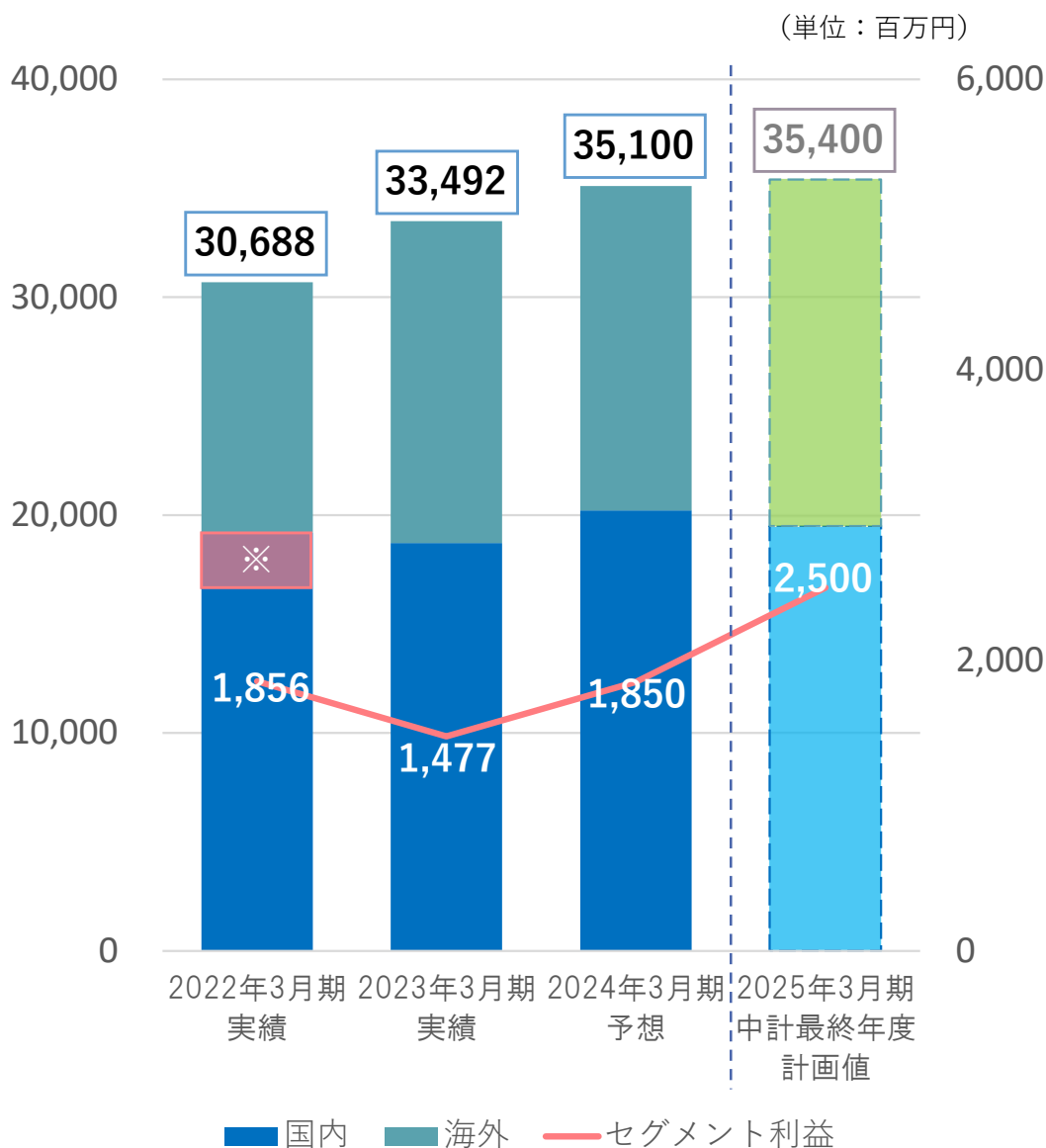
環境素材 ※P.36



# Daily Life & Healthcare



## | 2.セグメント別概況



2023年3月期  
通期実績

2,804百万円増収 (+9.1%)  
379百万円減益 (△20.4%)

- 国内では、医療・生活資材市場向けコンパウンドの販売が進み増収
- 海外では、ASEANの医療市場向けコンパウンドの販売が進み、増収
- セグメント利益は、上半期の食品包材における原材料価格高騰分の価格転嫁が遅れ、減益

2024年3月期  
業績予想

1,608百万円増収 (+4.8%)  
373百万円増益 (+25.3%)

- 国内では、医療・生活市場向けコンパウンド拡販と外食需要回復に伴う食品包材の販売増加により、増収
- 海外では、医療市場を中心にコンパウンドの販売を進め、増収
- セグメント利益は、電力料等製造コスト上昇の影響はあるものの、国内・海外での拡販により、増益

※2022年3月期には、連結子会社の吸収合併に伴い、合併後にリケンテクノスで計上されるリケンファブロ分の2022年1月～3月の3ヵ月分の売上げが含まれています。

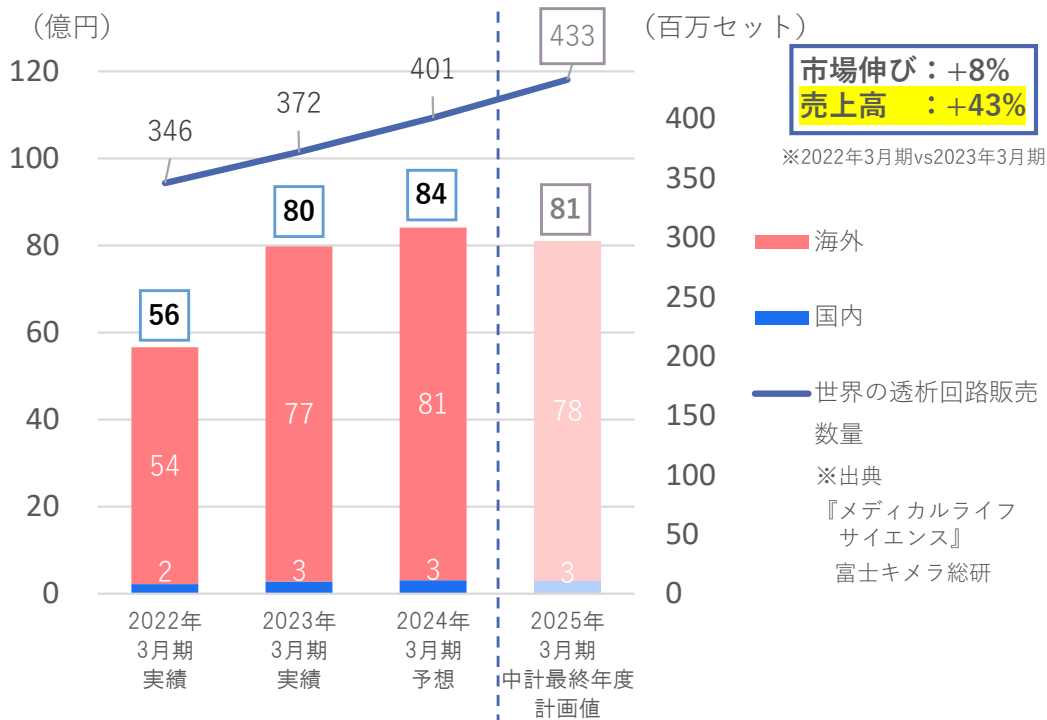
# Daily Life & Healthcare



## | 2.セグメント別概況

### 重点分野① 医療用(PVC)

透析回路の販売数量と当社医療用PVCコンパウンド売上高



#### 2023年3月期 通期実績

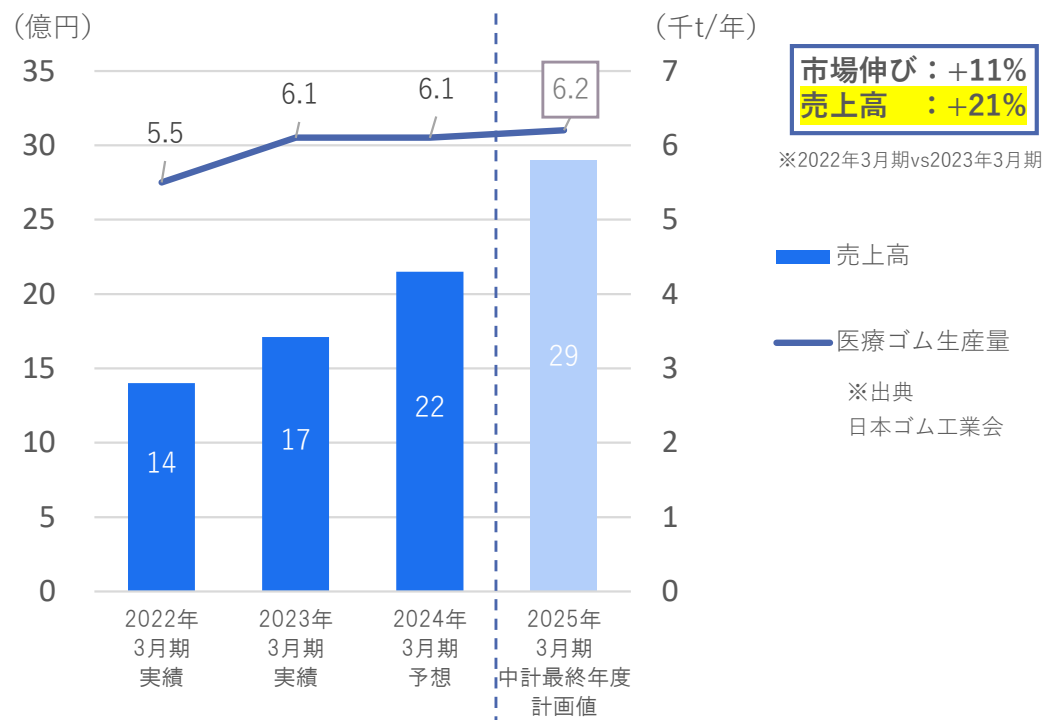
- ASEANでの医療用塩ビコンパウンドの販売増加、及び原材料価格高騰分の価格転嫁により、増収

#### 2024年3月期 通期施策

- 主用途の透析回路市場は8%程の伸びを予測しており、日系顧客を中心にASEANでの拡販
- ASEANにおける非日系顧客の新規開拓と拡販

### 重点分野② ゴム代替

国内医療ゴム生産量と当社ゴム代替コンパウンド売上高



#### 2023年3月期 通期実績

- 医療用エラストマーの新規拡販と食品市場向けエラストマーの販売増加により、増収

#### 2024年3月期 通期施策

- 国内では、新規採用された医療用エラストマーの拡販、日用品を中心とした生活資材市場での拡販
- 海外では、タイでの生活資材市場向けエラストマーの新規開拓

# Electronics

エレクトロニクス



電力・産業電線



情報通信



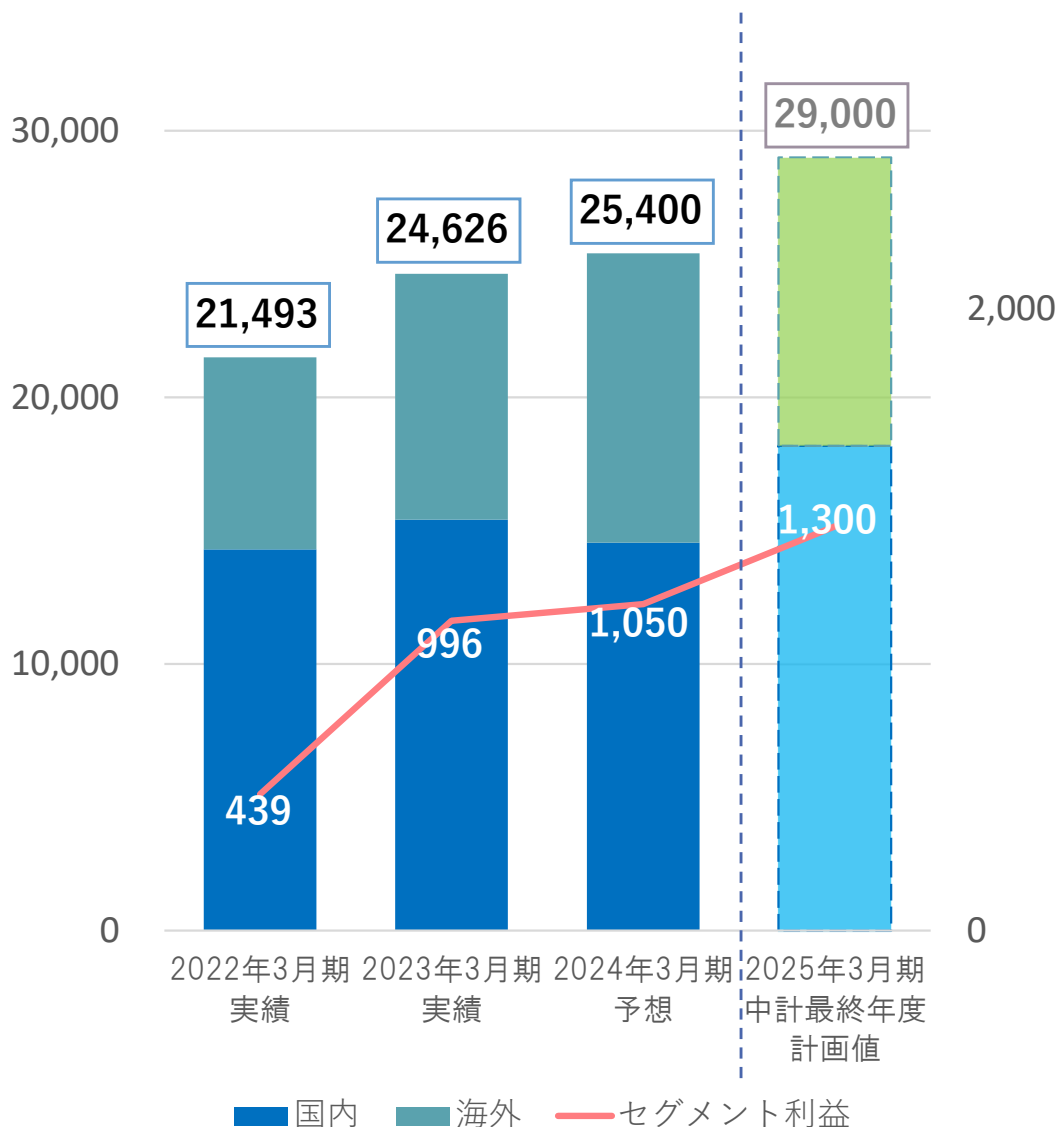
光学フィルム

# Electronics



## | 2.セグメント別概況

(単位：百万円)



**2023年3月期  
通期実績**

**3,133百万円増収 (+14.6%)**  
**557百万円増益 (+127.0%)**

- 国内では、電力・産業電線、情報通信向け塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、米国、ASEANでの塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- セグメント利益は、国内・海外での販売が増加したことにより、増益

**2024年3月期  
業績予想**

**774百万円増収 (+3.1%)**  
**54百万円増益 (+5.4%)**

- 国内では、電力・産業電線市況低迷の影響を受けるも、通期では増収
- 海外では、情報通信、ロボットFA向け塩ビコンパウンドを拡販し、増収
- セグメント利益は、国内・海外での販売を進め、増益

# Electronics

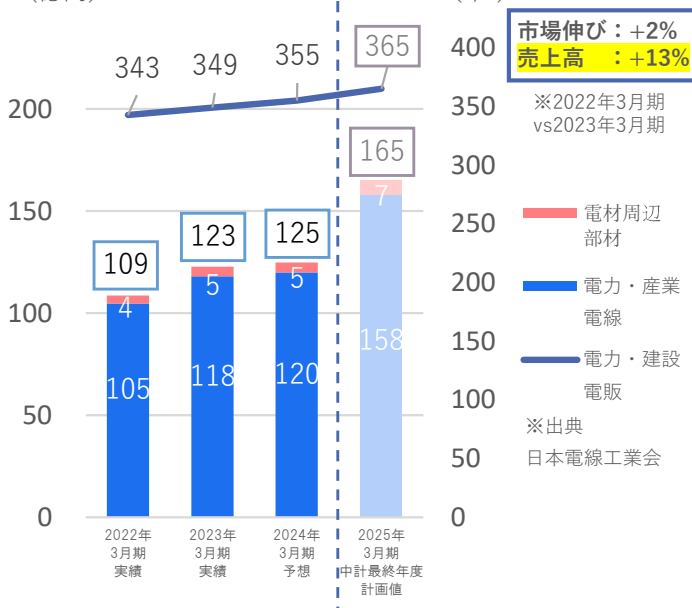


## | 2.セグメント別概況

ELECTRONICS

### 重点分野① 電力・産業電線

国内の電力・建設電販市場向け電線銅量と当社コンパウンド売上高 (億円) (千t)



#### 2023年3月期 通期実績

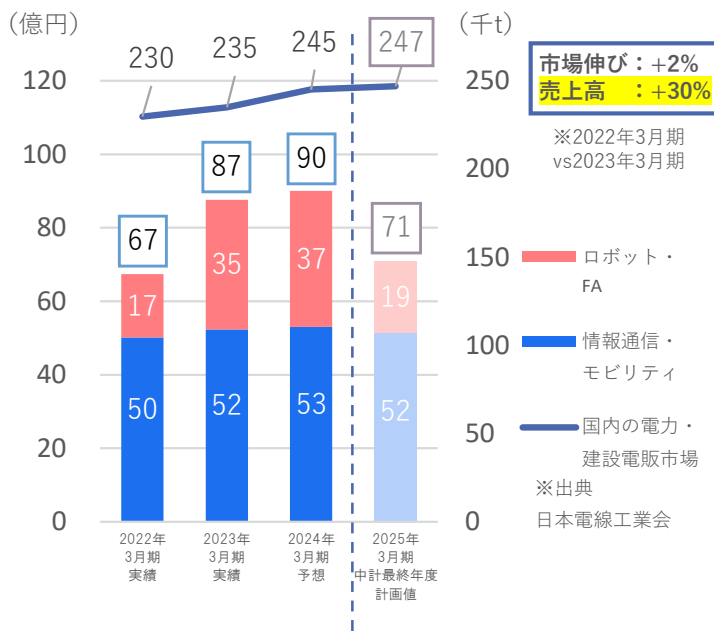
- 国内では、競合他社及び自家練り切替を推進しシェア拡大
- 海外では、ASEANにて電力・産業電線の新規顧客調査が進捗
- 錫フリーACS材の処方の確立と市場調査開始

#### 2024年3月期 通期施策

- 国内では、競合他社及び自家練り顧客からの切替
- 海外では、電力・産業電線非日系顧客への販売戦略を策定し、拡販

### 重点分野② 情報通信

国内の情報通信市場向け電線銅量と当社コンパウンド売上高 (億円) (千t)



#### 2023年3月期 通期実績

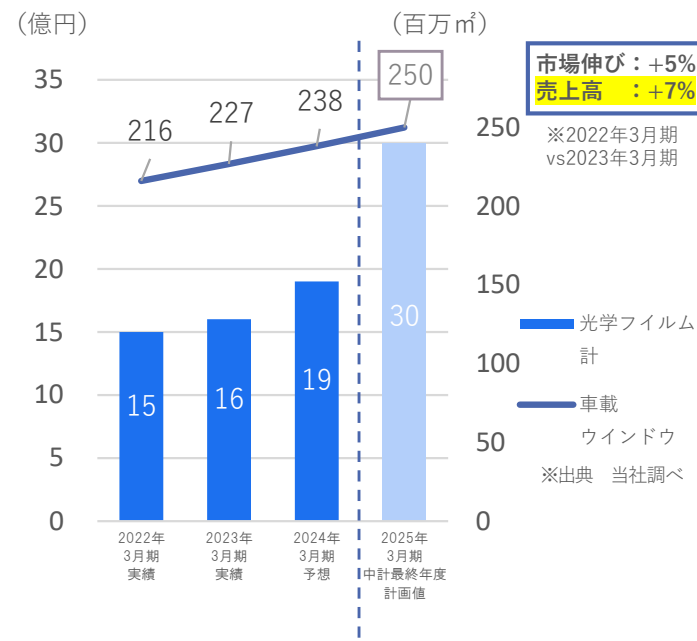
- 国内・海外でロボットFAケーブルの販売が伸長
- EV車バッテリー用FFC販売開始
- 北米向けでEV車充電ケーブルが販売開始

#### 2024年3月期 通期施策

- 北米に加え、欧州・アジア市場でもEV車充電ケーブルの販売戦略を策定し、拡販
- ロボットFAケーブルの販売戦略を策定し、海外市場で拡販

### 重点分野③ 光学フィルム

車載用ガラス代替フィルム需要と当社光学用フィルム売上高 (億円) (百万㎡)



#### 2023年3月期 通期実績

- 拡販が進んだ車載用遮熱フィルムが好調で昨年比7%の売上増

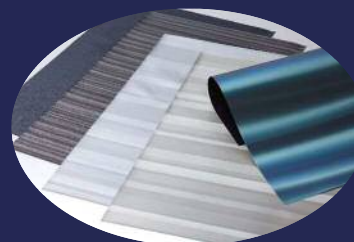
#### 2024年3月期 通期施策

- 車載用遮熱フィルムは、販売増によるブランド浸透を進め、既存代理店のサポート強化と新規代理店開拓に注力
- 半導体用はコロナ禍停滞していた新規ユーザーでの評価を進め、中長期的な安定販売をめざす



# Building & Construction

ビルディング&コンストラクション



建装用フィルム



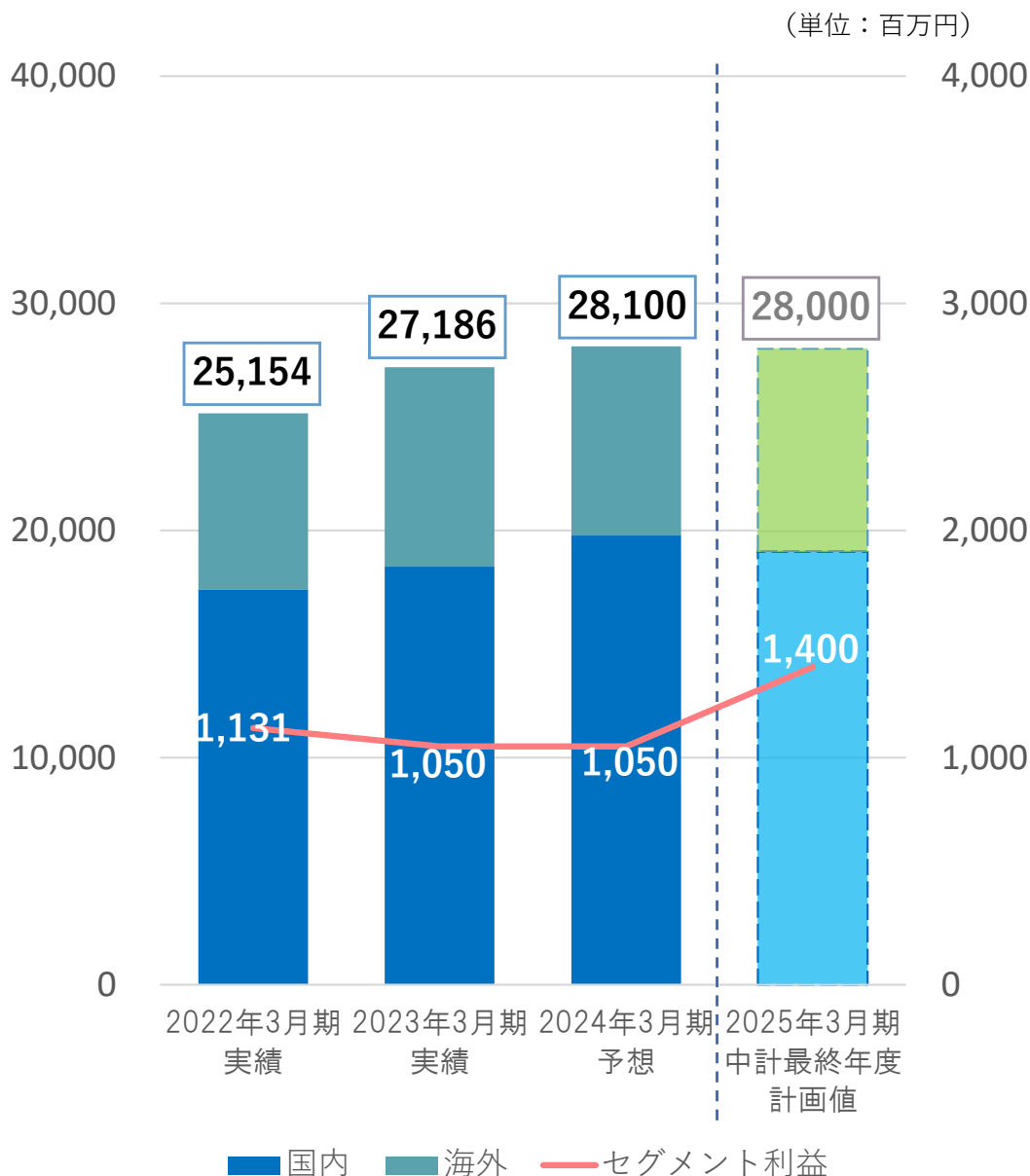
住宅・建築資材

# Building & Construction



BUILDING  
& CONSTRUCTION

## 2.セグメント別概況



2023年3月期  
通期実績

**2,032**百万円増収 (+8.1%)  
**81**百万円減益 (△7.1%)

- 国内では、住宅着工件数は横ばいも、政府の「住宅省エネ2023キャンペーン」による樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、北米での塩ビコンパウンドの販売が進み、増収
- セグメント利益は、国内フィルムの販売減少と原材料価格高騰分の価格転嫁が遅れ、減益

2024年3月期  
業績予想

**914**百万円増収 (+3.3%)  
**± 0**百万円 (±0.0%)

- 国内での「住宅省エネ2023キャンペーン」による樹脂サッシ用塩ビコンパウンドを中心とした販売増とコロナ禍明けの建装フィルムの改装需要増取り込により、増収
- セグメント利益は、電力料等製造コスト上昇の影響もあり、横ばい

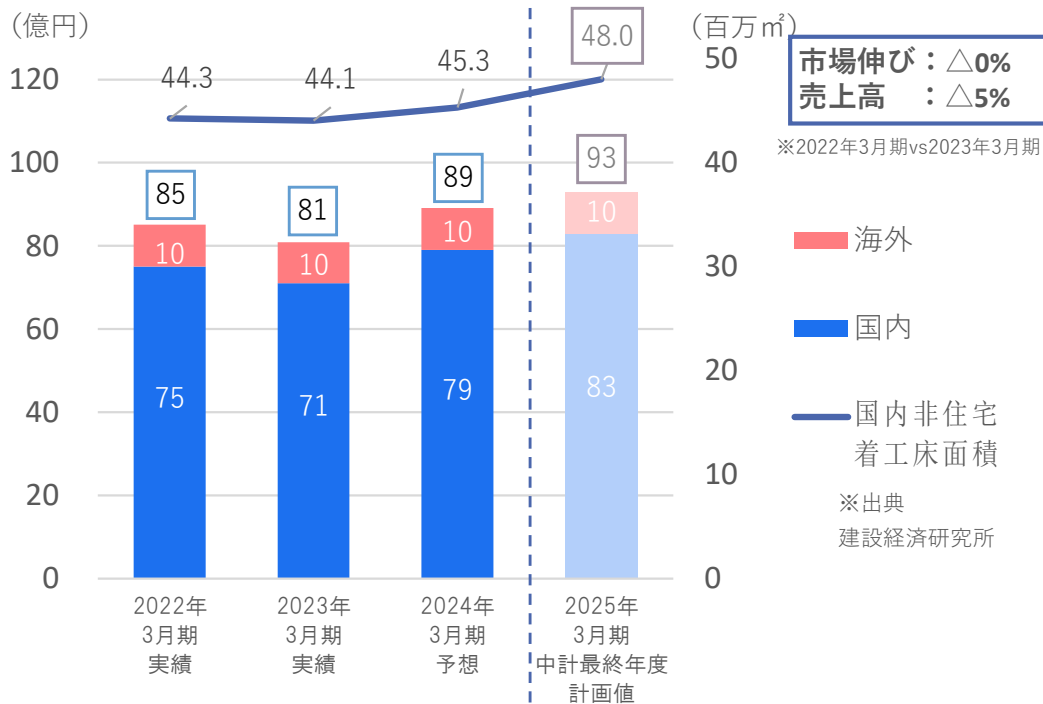
# Building & Construction



## | 2.セグメント別概況

### 重点分野① 建装用フィルム

国内非住宅着工床面積と当社建装用フィルム売上高



#### 2023年3月期 通期実績

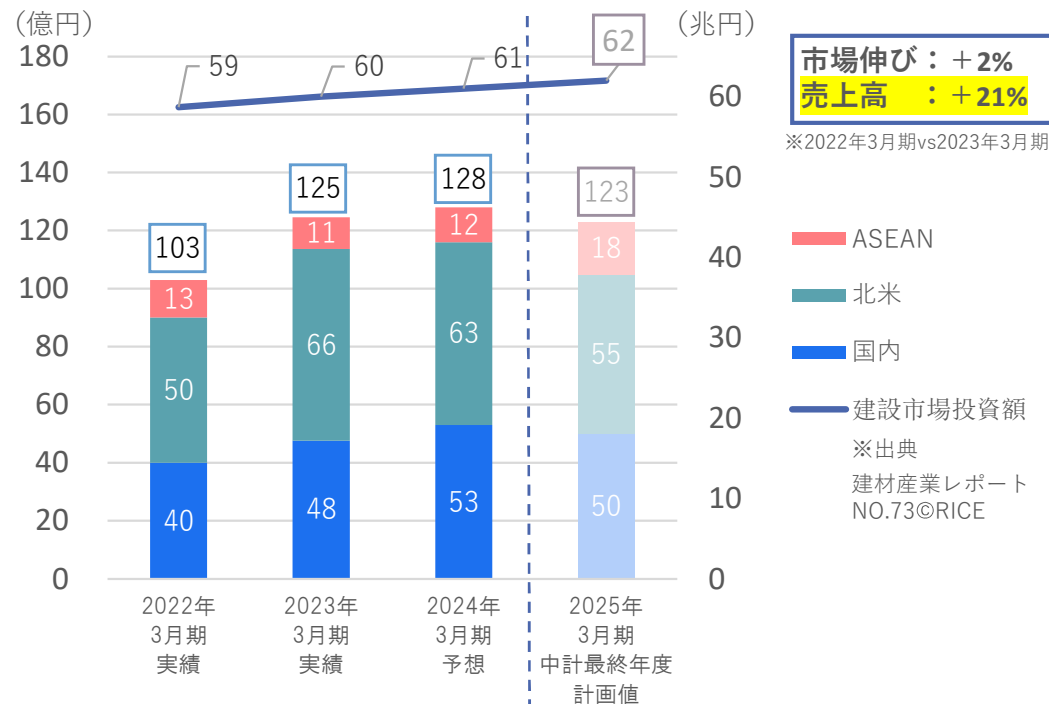
- 国内では、住宅市場が低調に推移する中、建装用フィルムで主要顧客の在庫調整により減収
- 海外では、北米のフィルム販売が増加したものの、他地域での販売減で横ばい

#### 2024年3月期 通期施策

- 国内では、コロナ後の店舗改装需要を中心に高級壁装での販売増を確実に取り込み
- 海外では北米・中国の家具用途への新規拡販

### 重点分野② 住宅・建築資材

建設市場投資額と当社住宅・建築資材向けコンパウンド売上高



#### 2023年3月期 通期実績

- 国内では、政府の「住宅省エネ2023キャンペーン」がスタートし、樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- 北米での塩ビコンパウンドの販売が進み、増収

#### 2024年3月期 通期施策

- 「住宅省エネ2023キャンペーン」による樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの販売増加
- ASEAN、北米での塩ビコンパウンドの拡販





### 3. 中長期的取り組み

---

決算概要

---

セグメント別概況

---

中長期的取り組み

# 中長期的にありたい姿 | 3.中長期的取り組み

➤ リケンテクノスグループのミッションに基づき長期ビジョンを策定

➤ 長期ビジョンの実現に向け2022年度より現中期経営計画を始動

リケンテクノスの  
強み/ビジネスモデル

- グローバル展開する優良顧客  
に対して、お客様の望むもの  
を届ける力
- 高い技術力
  - 処方設計技術
  - 混練技術
  - カレンダー製膜技術

リケンテクノスを取り巻く  
(中長期の)環境

- 脱プラの動き
- 環境意識の高まり
- デジタル化の潮流
- EV化の進展
- 国内市場の縮小
- アジアの成長

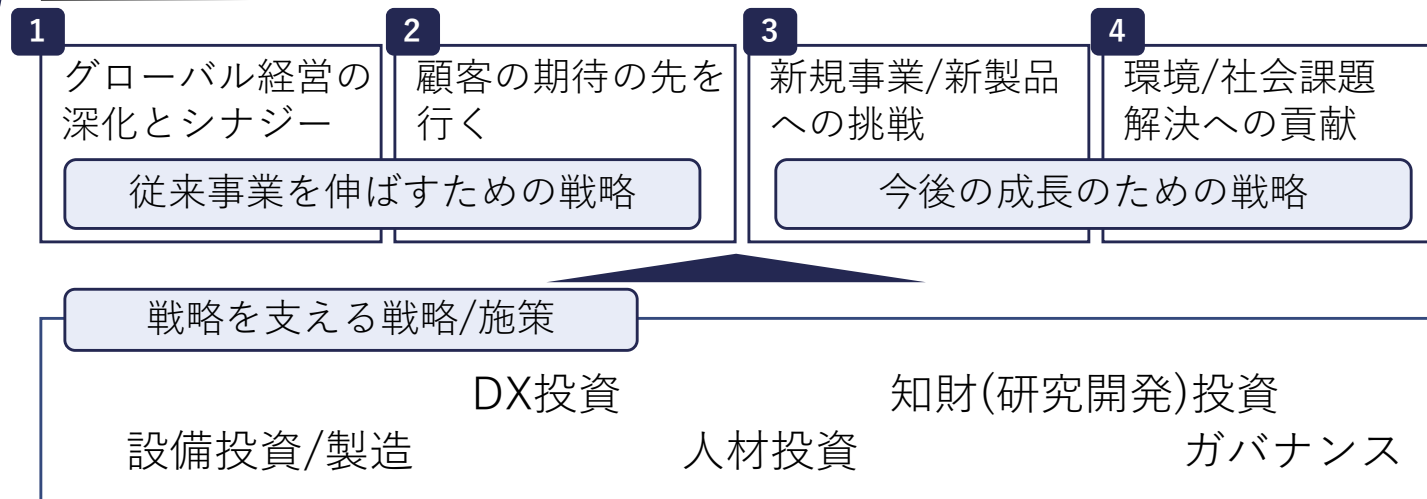
**ミッション**  
(=存在意義)

私たちは科学の力で豊かさ、安心、快適を創り出す  
チャレンジメーカーです。  
独創的で卓越した樹脂素材の配合加工技術で、  
企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます。

**長期ビジョン**

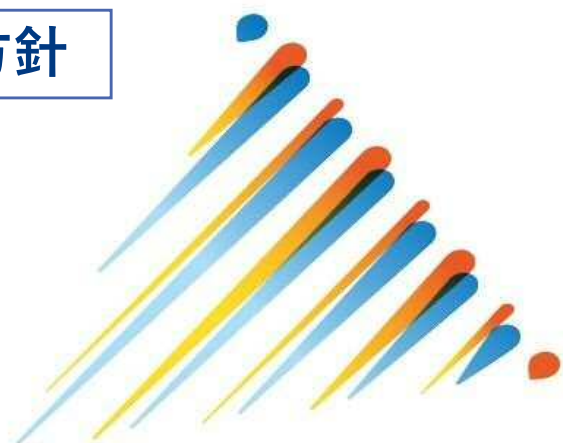
すべての生活空間に快適さを提供する  
リーディングカンパニーを目指して

中期経営計画の基本戦略



# 3カ年中期経営計画

## 経営方針



Challenge Now  
for Change New 2024  
変革への挑戦

すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して

### 4つの戦略

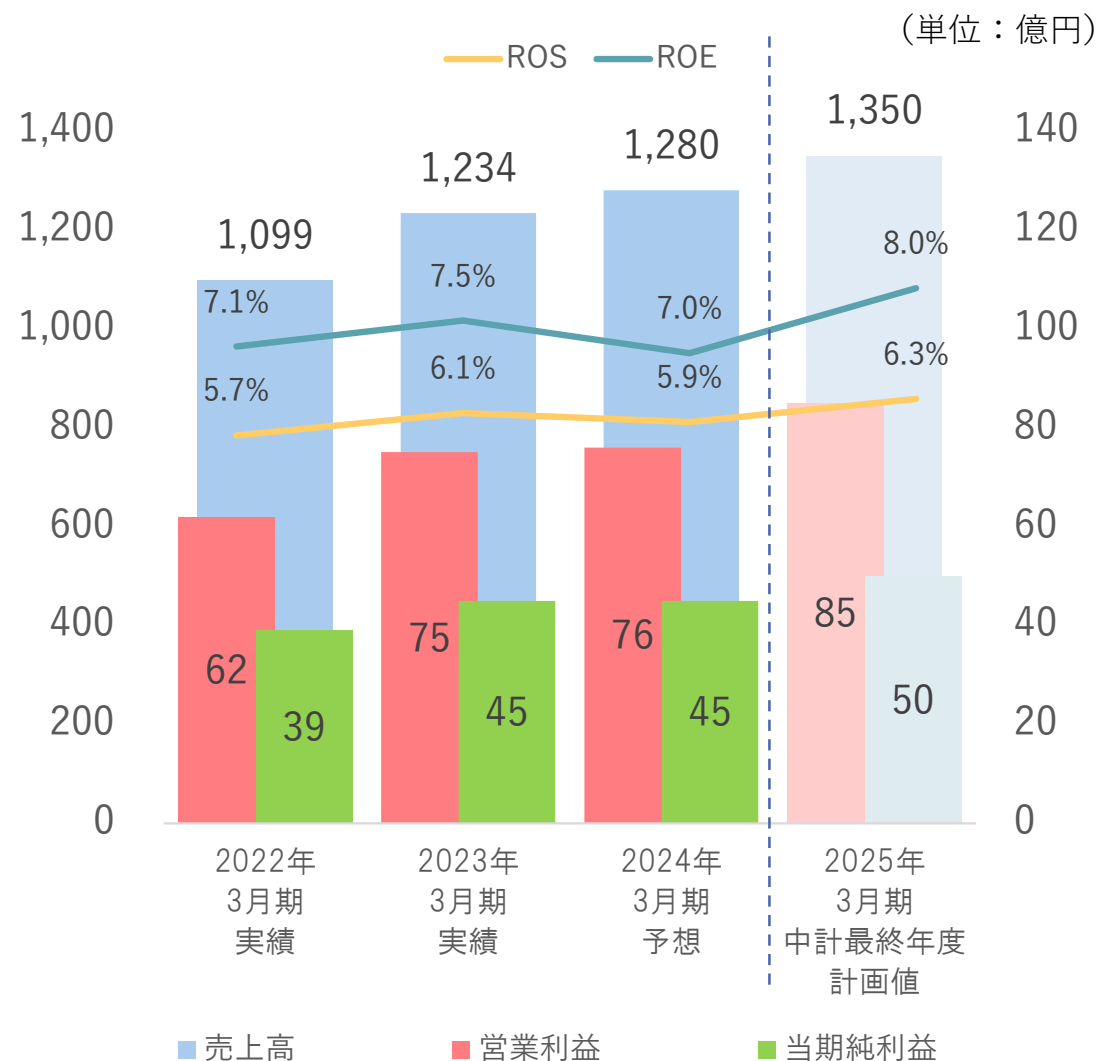
グローバル経営の深化とシナジー

顧客の期待の先を行く

新規事業／新製品への挑戦

環境／社会課題解決への貢献

## 3. 中長期的取り組み



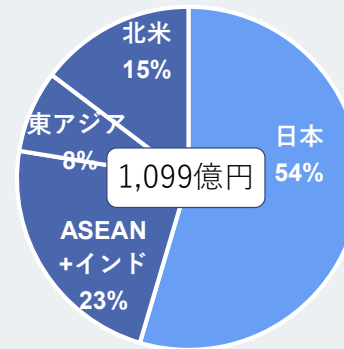
前提条件  
2025年3月期計画 ナフサ価格：61千円/KL 為替：114円/USD

### 戦略①グローバル経営の深化とシナジー

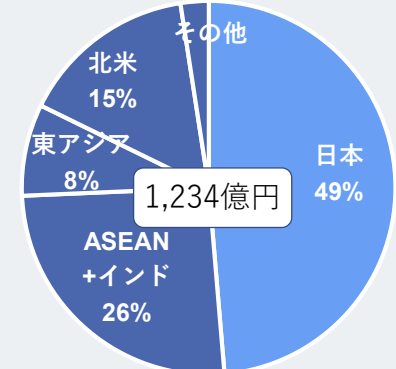
- グローバル営業会議／製造会議によるグループ全体最適の追求
- 海外生産体制の増強（タイ、ベトナム、北米）
- グローバル品質管理体制（機械化、自動化）の構築
- グローバル購買体制構築（グローバル調達部の設置、運用開始）
- 通期海外売上高比率：51.4%

#### 地域別売上高比率

2022年3月期売上高



2023年3月期売上高



✓ 中計目標である海外売上高比率50%を初年度で達成

### 戦略②顧客の期待の先を行く

- 高い戦略的思考を持つ営業人材の育成/教育（社内外研修）
- 研究開発部門におけるマテリアルズインフォマティクスの導入～運用開始
- 顧客評価用のサンプル提供スピードUPのための生産体制確立（最新鋭試作機の導入）
- 全社横断でのDX推進WG活動およびDX教育の実施
- デザインレビュー（DR）運用の定着による品質管理体制の強化

### 戦略③新規事業／新製品への挑戦

- 新規事業開発準備室の設置によるテーマ探索の推進
- 産学連携によるオープンイノベーションの開始
- 研究開発体制の充実（コンパウンド開発とフィルム開発の融合による配合技術の強化）
- 知財創出を念頭に置いた開発プロセスの見直し・IPランドスケープの実践
- 多様な人材が活躍出来る仕組み作り  
（中途／外国人採用の強化、女性総合職キャリア開発研修、人事給与制度見直しの実施など）

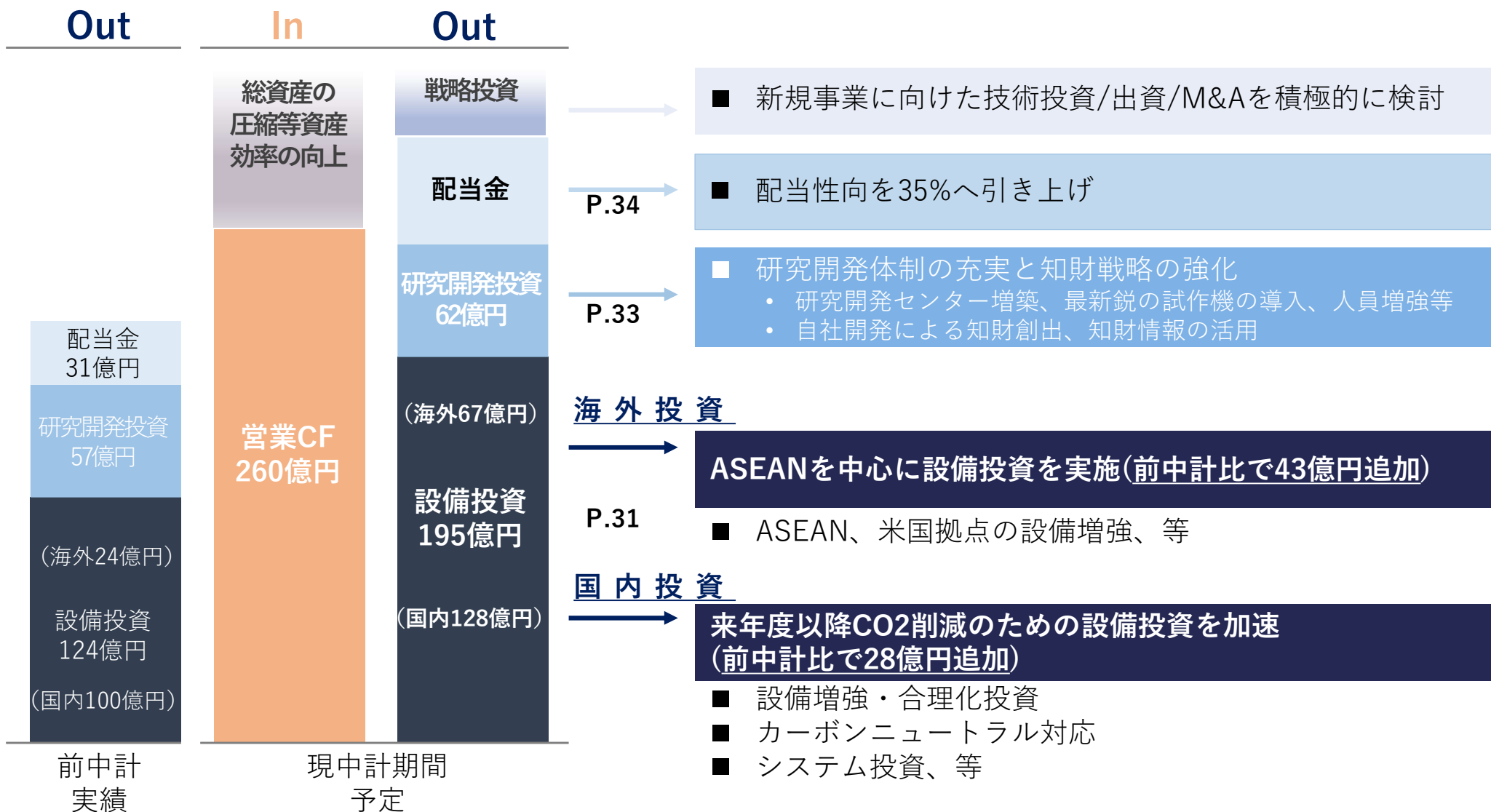
### 戦略④環境／社会課題解決への貢献

- サステナビリティ委員会の設置による気候変動問題への対応・マテリアリティの特定
- 環境対応製品の開発・拡販
  - ▷ 「RIKEBIO®リケビオ」の上市、「Natural RIKEBIO®」の開発
  - ▷ 「ゴム代替」エラストマーの採用拡大
  - ▷ 「リケンラップ ボタニカル®」の開発
- サーキュラーエコノミーへの対応開始
- 社会貢献活動の実施

# 中期経営計画における財務戦略

## 3. 中長期的取り組み

- 営業キャッシュフローを中心に設備投資、研究開発投資、戦略投資で企業価値向上に繋げていく
- 設備投資額は前中期経営計画から大きく増額（特に海外）



# 投資（実績と予測）

| 3.中長期的取り組み

## 設備投資/システム投資

3カ年中期経営計画：195億円

(単位：億円)	主要案件	総額	海外比率		減価償却費	
			国内	海外		
2023年3月期 実績	ASEANにおける設備増設 国内設備増強 国内外合理化投資	47	33	14	30%	31
2024年3月期 予測	ASEAN・米国における設備増設 国内設備増設・増強 国内外カーボンニュートラル対応 国内外合理化投資 国内外システム投資	68	44	24	35%	34
2025年3月期 予測	ASEAN・米国における設備増設 国内設備増設・増強 国内外カーボンニュートラル対応 国内外合理化投資 国内外システム投資	80	51	29	36%	36
合計		195	128	67	34%	

✓ 2023年3月期より、国内外にてCO<sub>2</sub>削減のための設備投資の検討開始。次期より順次対応開始予定。

# 設備投資

## | 3.中長期的取り組み



### RIKEN (THAILAND) CO., LTD. 塩ビコンパウンド生産設備増設



#### ・新工場建屋、新ライン、倉庫増設

##### 《進捗》

- ✓ 2023年2月 建屋完成
- 6月 新規ライン稼働開始予定

✓ 投資金額：約15億円



### RIKEN VIETNAM CO., LTD. 塩ビコンパウンド生産設備増設



#### ・新工場建屋、新ライン、倉庫増設

##### 《進捗》

- ✓ 2023年4月 当初計画から1年程度後倒しで都市計画の承認取得
- ✓ 2024年10月に新規ライン稼働開始に向けて継続対応中

✓ 投資金額：約15億円



### RIKEN ELASTOMERS CORPORATION 塩ビコンパウンド生産設備増設



#### ・既存建屋に新ライン増設

##### 《進捗》

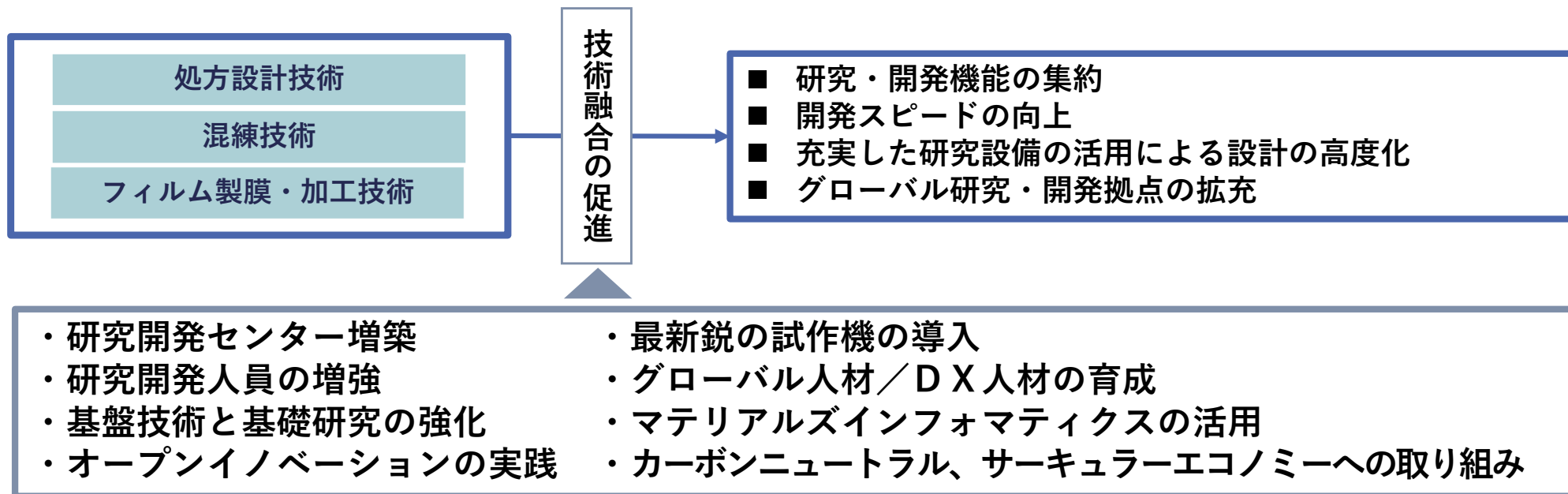
- ✓ 2024年12月に稼働開始予定

✓ 投資金額：約15億円



### 研究開発体制の充実

基盤技術を強化しイノベーションを創出



### 知財戦略の強化

知財創出と活用

事業情報に知財情報を取込んだ分析を実施

- IPランドスケープの実践

### 研究開発投資

中期経営計画期間：62億円

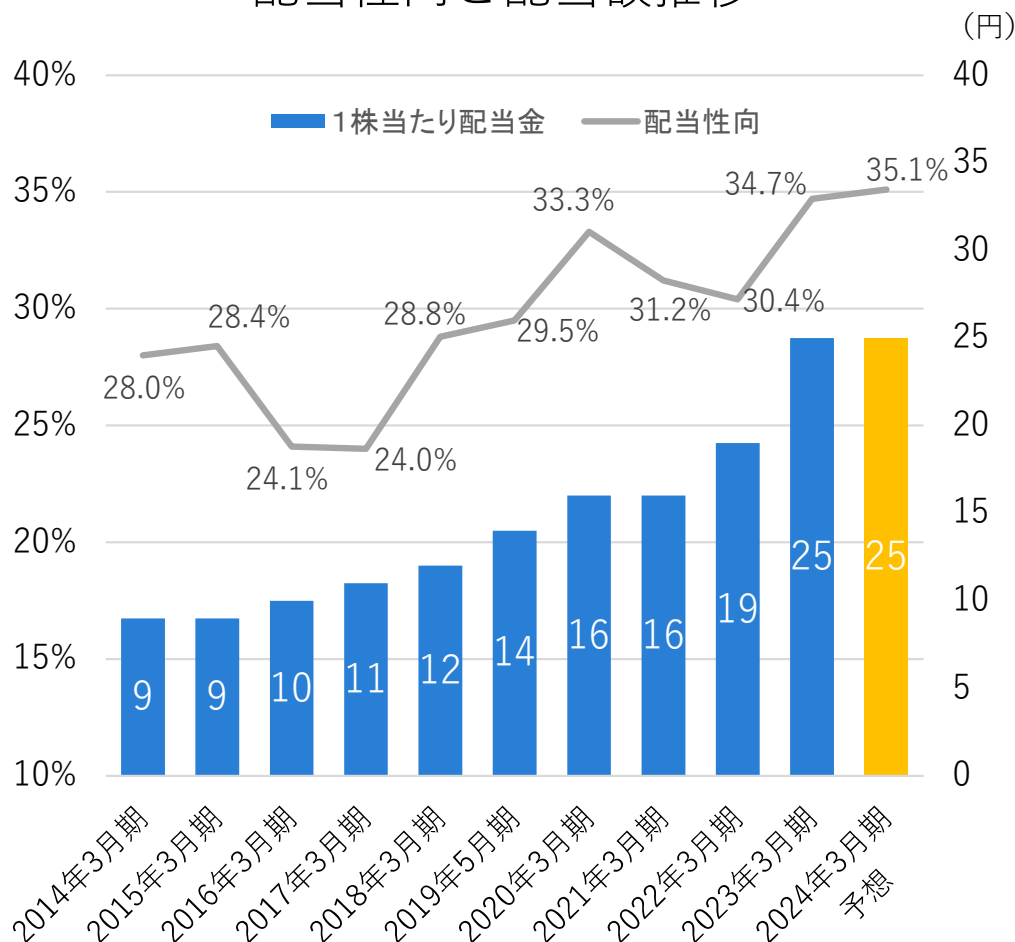
- カスタマーディライト製品のスピード開発
- DXを活用した、開発スタイルの転換

# 株主還元

## 3.中長期的取り組み

- 財務状況と事業のバランスも考慮しつつ安定的な配当を実施
- 2023年3月期より連結配当性向を従来の30%程度から35程度%へ引き上げ

### 配当性向と配当額推移



### 配当方針

#### 連結配当性向を従来の30%程度から35%程度へ引き上げ

- 連結配当性向35%程度を一つの目途とした上で、今後の事業投資・自己資本の充実等も勘案し、安定的な配当を行う

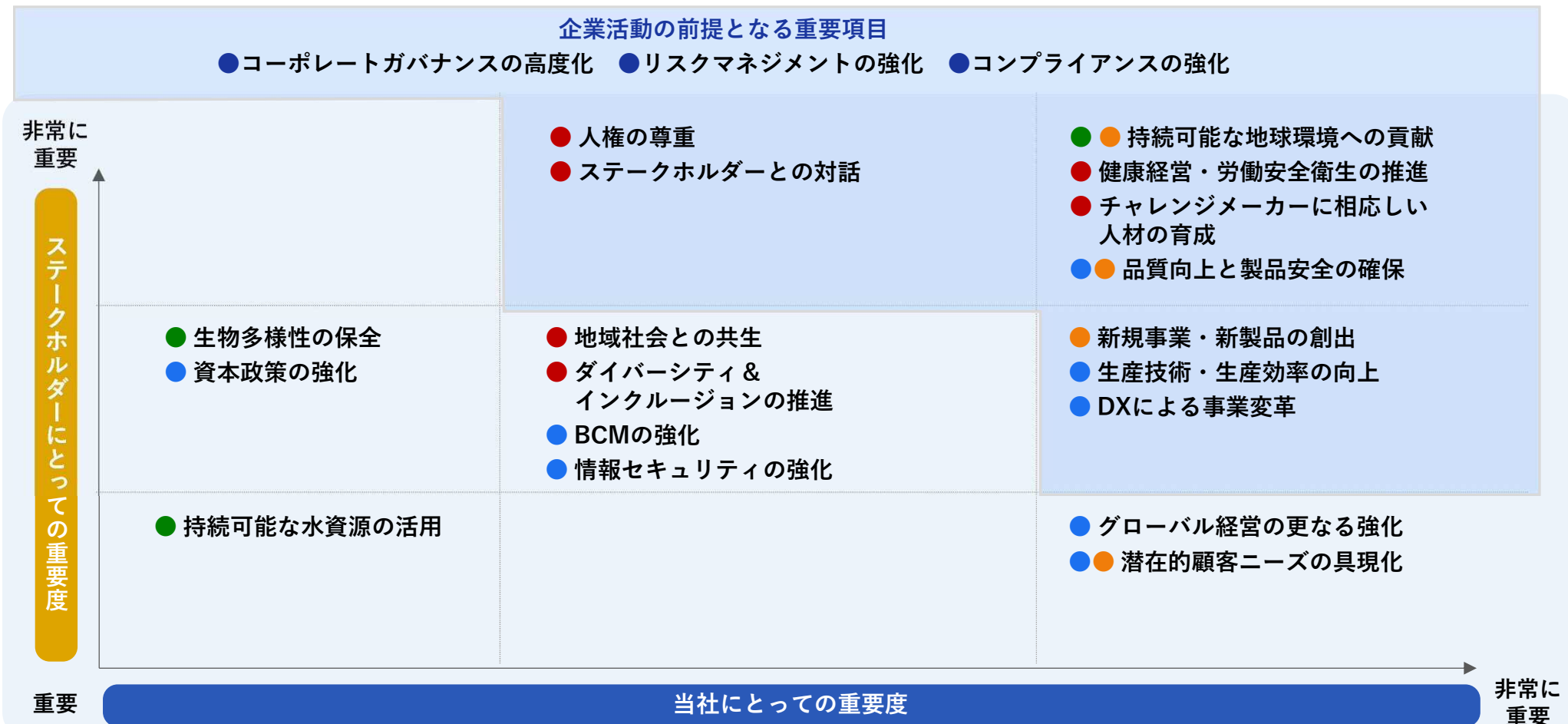
### 今期配当見通し

- 2023年3月期については、前期19円⇒25円に6円の増配（期初予想比6円の上方修正）
- 期初の2024年3月期予想として、上期12円、下期13円の25円の配当を予想

# マテリアリティの特定

## 3.中長期的取り組み

### ▶長期ビジョン実現に向けた重要課題（マテリアリティ）の特定



●本業を通じた社会への貢献 ●地球環境の保全 (E) ●社会との共生 (S) ●事業基盤の強化 (G)

特定したマテリアリティについて、指標・目標（KPI）を定めました。目標達成に向けた取り組みを進め、実績を進捗管理することでPDCAサイクルを繰り返し、長期ビジョン実現に努めます。

## サステナビリティへの対応（環境配慮型製品の開発） | 3.中長期的取り組み

### ➤RIKEBIO®（リケビオ）シリーズの拡充・拡販

- ・RIKEBIO®は、化石資源の節約、温室効果ガスの増加抑制や循環型社会の形成など環境に配慮した製品群
- ・塩化ビニル、エラストマーのRIKEBIO®コンパウンドのラインナップを拡充
- ・廃棄する天然資源を原材料の一部に活用したNatural RIKEBIO®を上市
- ・コンパウンド技術を応用したシート化の検討



### ➤環境配慮型食品包装用ラップ「リケンラップ ボタニカル®」の開発

- ・サトウキビ由来のバイオマスポリエチレン樹脂を使用し、従来の石油由来ポリエチレンに比べて石油化学原材料の使用量を削減
- ・バイオマス度90%以上（バイオマスプラマーク取得）
- ・頻繁に使うラップフィルムをバイオマスプラスチック原料を使用した商品に変えることで、身近なところから環境負荷低減に貢献



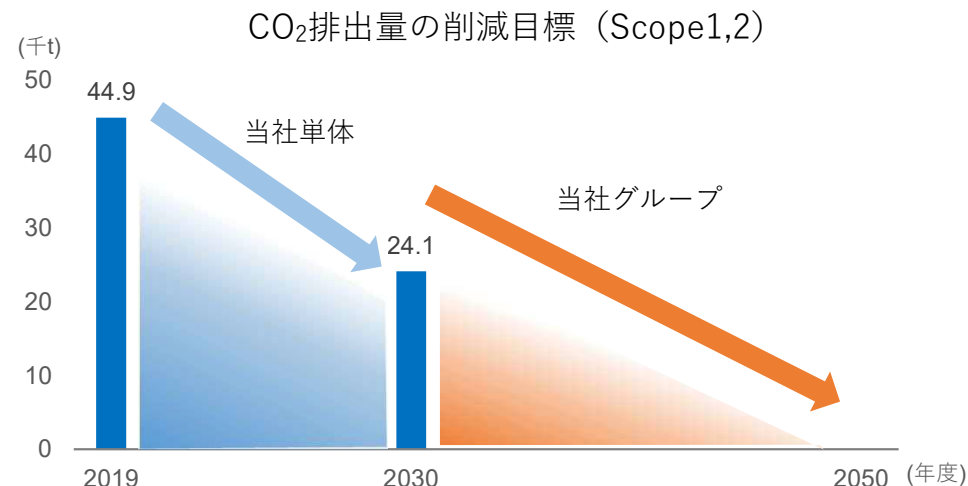
# サステナビリティへの対応（気候変動への取り組み） | 3.中長期的取り組み

➤ 気候変動への対応としてCO<sub>2</sub>排出量の削減目標を設定し、グループ全体で取り組みを推進

## 指標と目標

	2022年度	2030年度	2050年度
<b>単体</b> (Scope1,2)	41,139t	<b>24,139t</b>	—
<b>グループ</b> (Scope1,2)	86,220 t	—	<b>0t</b> (カーボンニュートラル)
<b>Scope3*</b>	集計中		

\*カテゴリ1(購入原材料)に該当する当社グループの排出量を算出しており、他の領域は順次開示を進める予定



## カーボンニュートラルに向けた取り組み

### これまで

- RIKEBIO® の開発
- 群馬工場隣接の太陽光発電設備による電力供給
- 省エネボイラーへの設備更新
- フォークリフトのEV化や低燃費の社用車使用

### 今後

- 生産拠点の設備改修（空調、生産機等）
- 重油ボイラーから天然ガスボイラーへの変更
- エネルギーロードマップの作成
- 再生可能エネルギーの導入拡大
- RIKEBIO® シリーズの拡充、拡販
- Scope3開示範囲の拡大
- 国内外での太陽光発電設備導入

# サステナビリティへの対応（事業を通じた環境への貢献） | 3.中長期的取り組み

➤ 従来事業の塩化ビニル、エラストマーにおいても「省エネルギー」や「省資源」、「リサイクル」などのテーマをもっており、これら製品の拡販により環境保護に対する貢献につなげる

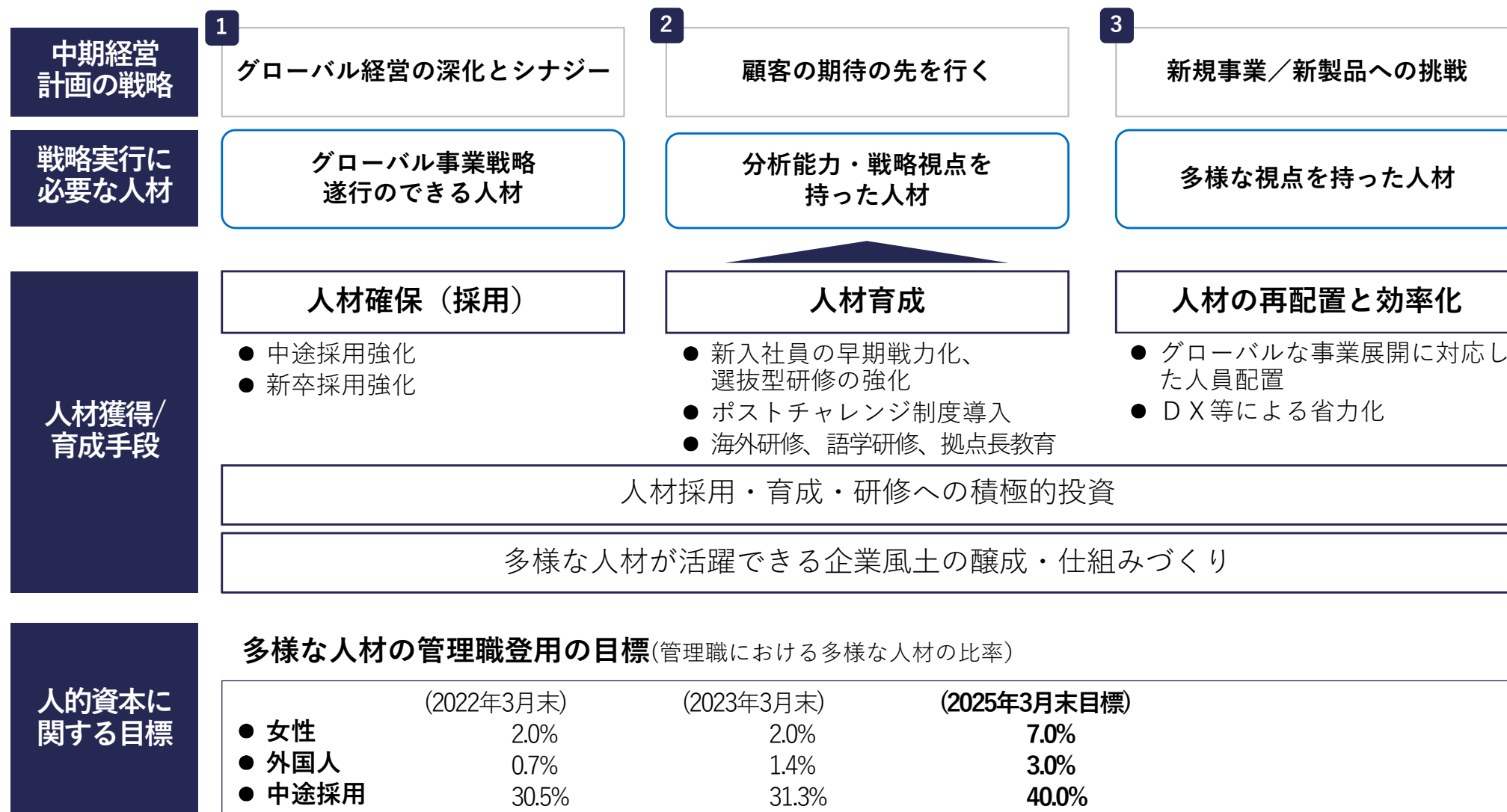
樹脂	特徴	当社製品を使用した環境貢献の例	
<p style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">塩化ビニル</p>	<p>■ 塩化ビニルの約60%は天然素材の「塩」に由来</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高耐久で長期使用できるため省資源</li> <li>資源エネルギー消費量では、石油由来の炭化水素を主とする他の樹脂（ポリエチレンやポリプロピレン）の半分以下*で低負荷</li> </ul> <p>※ポリエチレンやポリプロピレン: 45.6~46.5MJ/kg 塩ビ: 21.3MJ/kg</p>	<p style="text-align: center;">塩ビ樹脂製内窓用サッシ ①省エネルギー ②リサイクル</p>  <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #007bff; color: white; text-align: center;"> <p>CO<sub>2</sub>削減効果 アルミサッシ比較 約40%**</p> </div> <p>経産省・環境省の推進するZEH政策の一つとして既存住宅窓の高断熱化のための樹脂サッシ導入が進んでおり、旺盛な需要は続く見込みです。</p>	<p style="text-align: center;">産業電線 ①耐久資材 ②化学物質管理</p>  <p>耐久性に優れる塩ビは、長期使用が前提の産業電線等に使用されています。当社では各国の法規制に適合する処方設計を行い、化学物質管理に対応しています。</p>
<p style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">エラストマー</p>	<p>■ ゴムと比較して様々な面でエコフレンドリーな素材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成型サイクル時間を短縮でき、製造時のCO<sub>2</sub>発生量の削減に貢献</li> <li>低比重な素材のため、自動車の車体軽量化・燃費向上に貢献</li> <li>リサイクル利用が可能</li> </ul>	<p>耐油性ゴムと同等の機能を有する “高耐油 TPV ACTYMER®K”</p>  <p>自動車の軽量化による燃費向上を目的とした素材転換、ゴム代替のトレンドは継続見込み</p>	<p>優れたゴム特性で加硫ゴム代替となるTPV “ACTYMER®G”</p> 

\*出典：塩ビ工業・環境協会HPより作成 \*\*出典：樹脂サッシ工業会

# 人的資本

## | 3.中長期的取り組み

➤ 中期経営計画の達成に向け人材面においても、人材獲得・育成における取り組みを推進



➤ 今期は主に、「サステナビリティ委員会の新設」、「取締役に対するトレーニングの強化」、「グループ・ガバナンス体制の強化」、「株主・投資家との関係強化」につき取組みを実施

1	サステナビリティ委員会の新設	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 3ヵ年中期経営計画の戦略④「環境/社会課題解決への貢献」を推進する体制確立             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TCFD提言に沿った気候変動問題への対応の審議</li> <li>・ マテリアリティの審議</li> </ul> </li> </ul>
2	取締役に対するトレーニング強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 社外取締役对各事業所の視察等の十分な機会を提供             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工場・研究所で取締役会開催（現場社員とのディスカッションなど）</li> </ul> </li> <li>■ 取締役・執行役員懇談会（2回実施）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資本政策/企業価値向上策、マテリアリティ等につきディスカッション実施</li> </ul> </li> </ul>
3	グループ・ガバナンス体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 連結子会社の統制における実質面の強化             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバル製造会議の開始等、コミュニケーションの拡充</li> </ul> </li> <li>■ 連結子会社各社の経営課題の明確化とフォロー体制の構築             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各社の中期経営計画における経営課題報告・フォロー実施</li> <li>・ 連結子会社の吸収合併、本社移転（当社と同フロアに入居）</li> </ul> </li> </ul>
4	株主・投資家との関係強化 (情報発信の在り方の見直し)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サステナビリティ/環境対応開示の充実             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TCFD提言に基づく情報開示</li> </ul> </li> <li>■ 株主/投資家との対話手法の拡充             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 決算・経営概況説明会のweb/会場ライブ開催、資料の英文開示</li> </ul> </li> </ul>



# 株主・投資家との対話に関する取り組み

| 3.中長期的取り組み

- ▶ 今期は決算・経営概況説明会のWeb及び会場のライブ開催と英文開示資料の拡充、TCFD提言に基づく情報開示などの新しい取り組みを開始
- ▶ 今後も積極的に投資家の皆様との対話機会を設けていく

## 2023年3月期の対話実績

## 議決権行使の利便性向上に資する取り組み

機関投資家	決算・経営概況説明会のWeb及び会場のライブ開催	2回	SR訪問を通じた対話の促進	2023年4月～
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 決算短信、適時開示、決算・経営概況説明会、中期経営計画説明会資料の英文開示</li> <li>・ TCFD提言に基づく情報開示</li> </ul>		招集通知の早期発送 (2022年開催の定時株主総会実績)	5月31日に発送 (開催の17日前)
	個別ミーティング (含む電話会議)	約20回	招集通知の発送前の早期開示 (2022年開催の定時株主総会実績)	5月26日に開示 (開催の22日前)
個人投資家	株主通信の発行	2回	英文招集通知の作成	2018年6月～
	「早わかり リケンテクノス」サイトの更新	都度	ICJの議決権電子行使プラットフォームの採用	2015年6月～

# 免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

**お問い合わせ先**

**[webmaster@rikentechnos.co.jp](mailto:webmaster@rikentechnos.co.jp)**

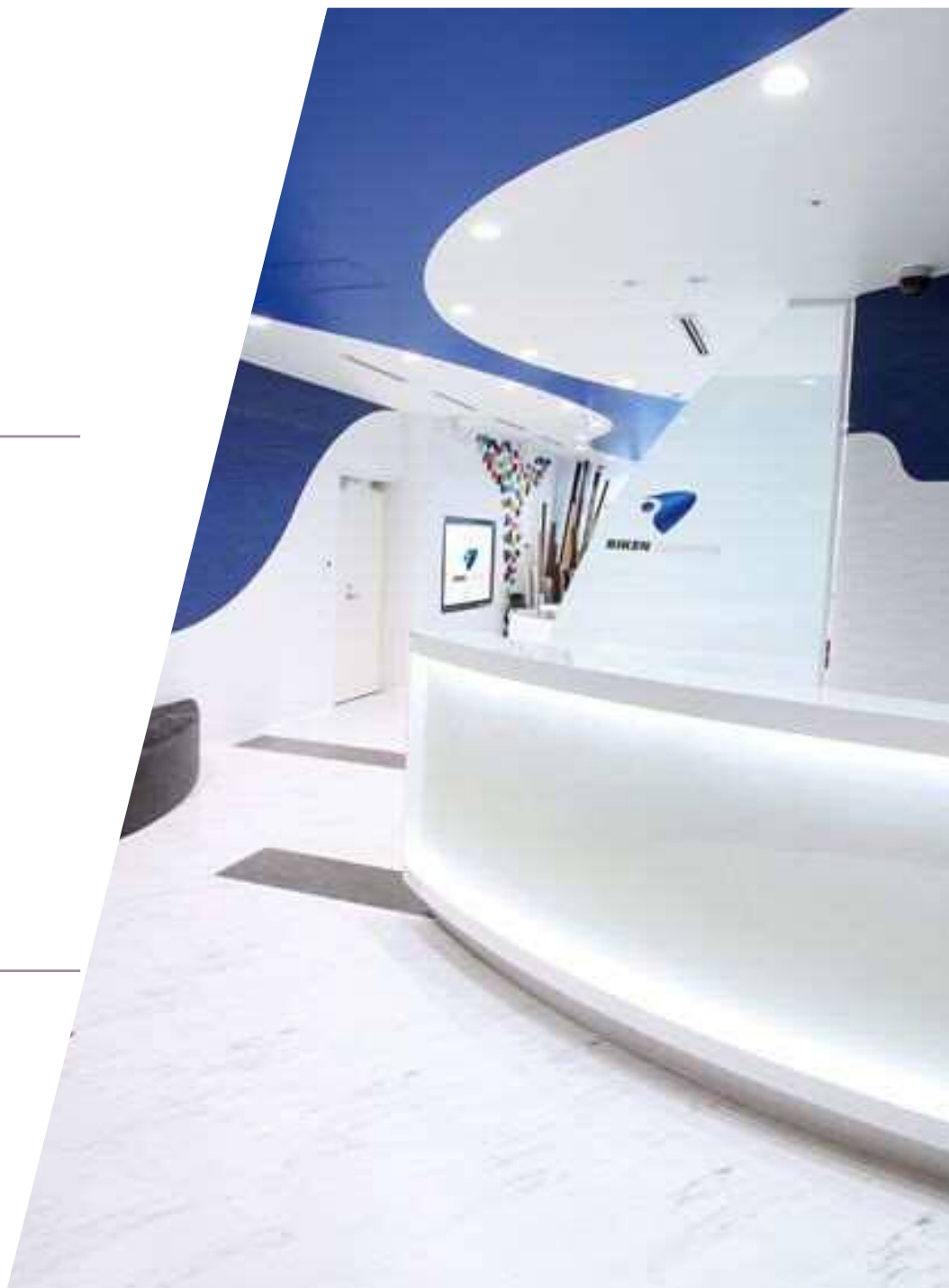
**経営企画部/経理部**



# 会社概要



社名	リケンテクノス株式会社
設立年月日	1951年（昭和26年）3月30日
資本金	85億14百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 常盤和明
従業員数	連結1,895名 単体780名（2023年3月31日現在）
本社所在地	〒101-8336 東京都千代田区神田淡路町 二丁目101番地 ワテラスタワー



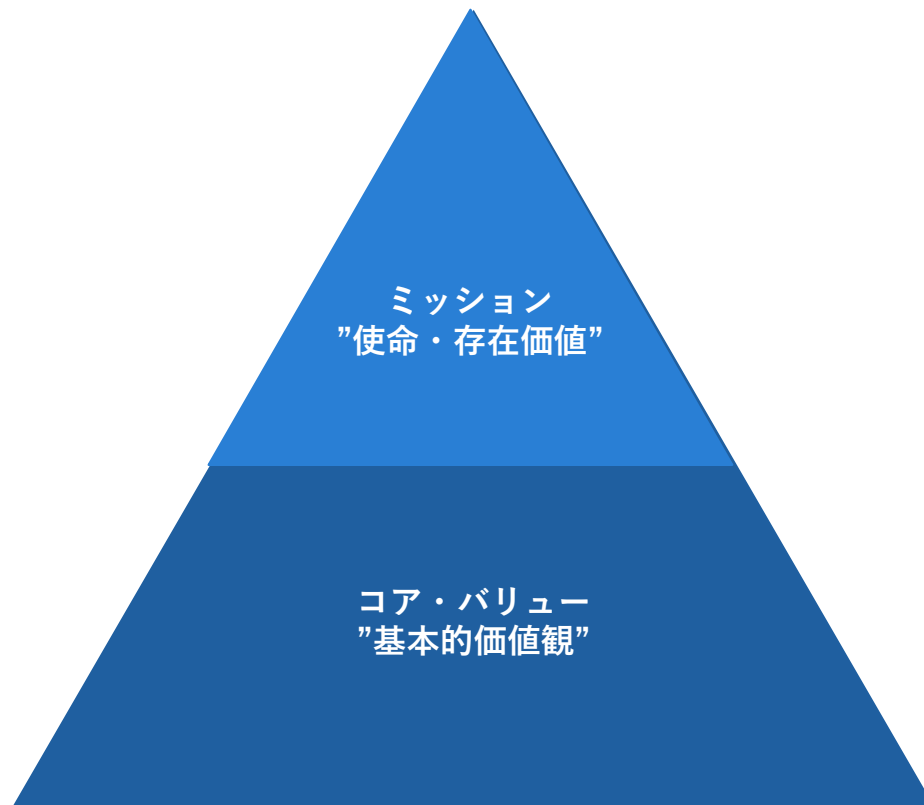
# 経営理念（リケンテクノスウェイ）

創業当時から引き継いでいる「ベンチャー精神」こそ、リケンテクノスの強みであり、「リケンらしさ」です。

この「リケンらしさ」をもとに経営理念である「リケンテクノスウェイ」は策定されました。

ミッションにある「チャレンジメーカー」という言葉は造語ですが、製造業という意味でのメーカーの他に、挑戦して何かを作り出す人という意味もこめられています。

未来の飛躍のために、これからも常識にとらわれず挑戦し続けてまいります。



## ミッション "使命・存在価値"

- 私たちは科学の力で豊かさ、安心、快適を創り出すチャレンジメーカーです。
- 独創的で卓越した、機能素材の配合加工技術で、企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます。

## コア・バリュー "基本的価値観"

- 信頼しあい貢献しあう
- 新しい価値を生み出す
- 常に挑戦し成長する
- 仕事を楽しみワクワクする
- 共に解決し共に喜ぶ

# 事業領域

➤ 合成樹脂加工に係わる総合的な技術をベースに「コンパウンド」、「フィルム」、「食品包材」の3つの主要製品を柱に各用途に応じた加工で幅広い産業に製品を供給、国内外で事業を展開しています

## セグメント

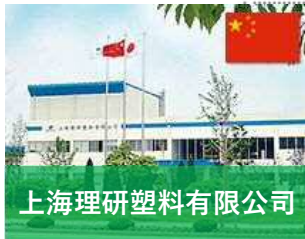
主要製品	概要	トランス ポーション	デイリーライフ & ヘルスケア	エレクトロニクス	ビルディング & コンストラクション
コンパウンド	ベースの樹脂に添加剤を何種類か混ぜ合わせ、新しい性質を持たせた複合材料で、主に押出成形や射出成型に使われる素材。塩化ビニルをはじめ、熱可塑性エラストマー、難燃性・導電性高機能コンパウンドを製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワイヤーハーネス用コンパウンド</li> <li>窓枠用コンパウンド</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジガasket用コンパウンド</li> <li>血液回路用コンパウンド</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>電力電線用コンパウンド</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>断熱窓枠用コンパウンド</li> </ul> 
フィルム	配合した樹脂の特性に適した製法で高品質フィルム製膜を実施。また、複数のフィルムを貼り合わせたり、表面に機能性塗料をコートすることにより意匠性や機能性を付与したフィルム製品を製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>エアバック用フレキシブルフラットケーブル用フィルム</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>抗ウイルス・抗菌フィルム</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代ディスプレイ用フィルム REPTY®</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>高級壁装用フィルム</li> </ul> 
食品包材	日本で初めて塩化ビニル樹脂のラップを開発したパイオニアとして、家庭用から業務用まで、食品包材用ラップの品質・性能を追求するとともに、食品や自動包装機などに適したラップを開発、製造	<ul style="list-style-type: none"> <li>小巻ラップ</li> <li>業務用ラップ</li> </ul> 			

# グローバルネットワーク



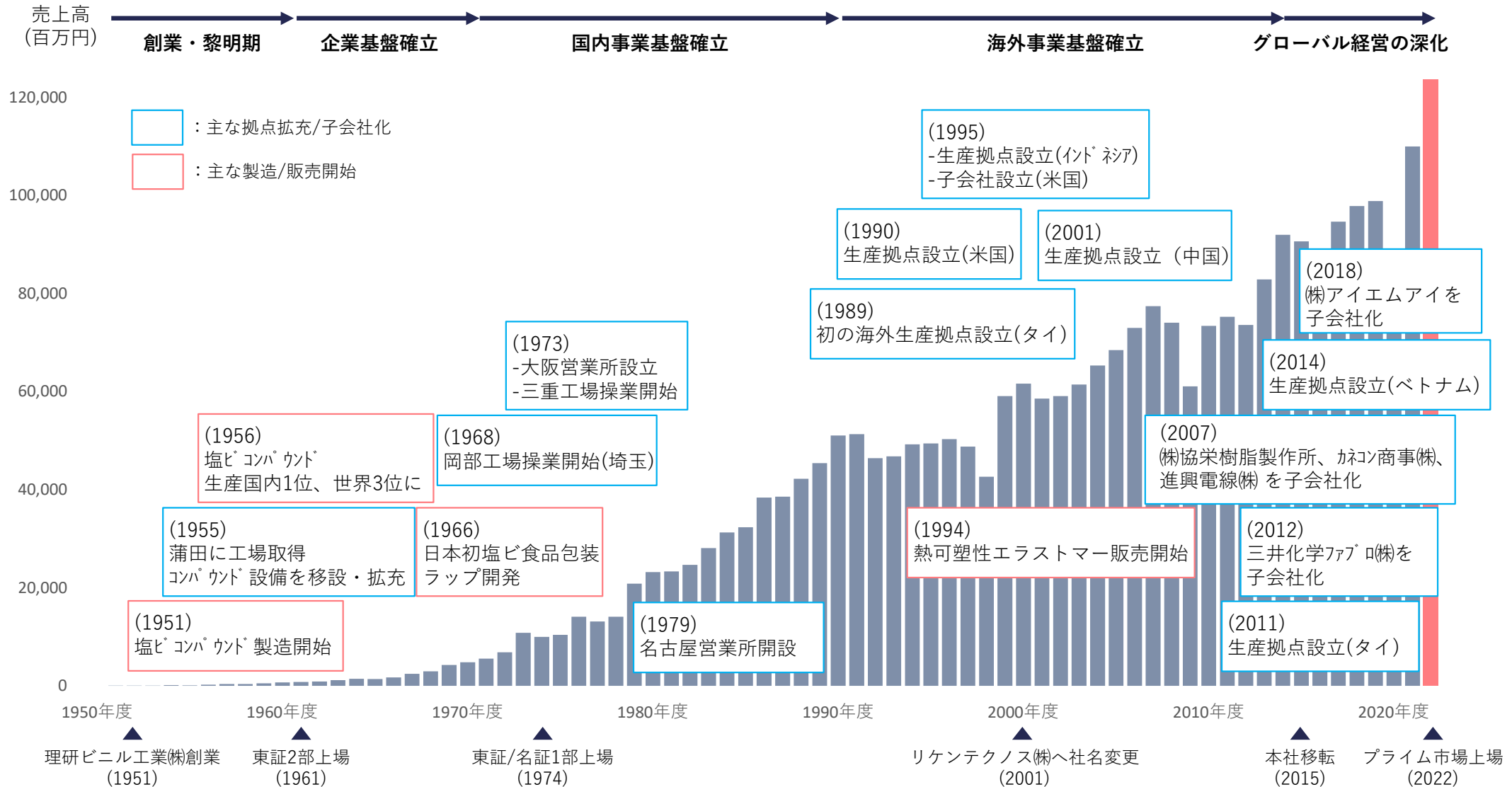
- 製造会社
- 販売会社

- リケンテクノス株式会社
- 国内子会社
  - リケンケーブルテクノロジー株式会社
  - リケンケミカルプロダクツ株式会社
  - 株式会社協栄樹脂製作所
  - 株式会社アイエムアイ



# 価値創造のあゆみ

➤ 1951年の創業以来、国内・海外拠点を拡充させ、多くの製品を世に出し続けて参りました



\*1999年度より連結決算開始に伴い連結売上高を記載

## (参考) マテリアリティとKPI

マテリアリティ名称	評価の基準 (KPI)	中長期目標	
		2024年	2030年
持続可能な地球環境への貢献	・ 2030年CO <sub>2</sub> 排出量削減目標の達成 (単体)	35,446 t	24,139 t (2019年度比46.2%減)
	・ 2050年カーボンニュートラル (グループ)	-	-
	・ 総廃棄物量の総生産量比 (単体)	3.3%以下	3.0%以下
健康経営・労働安全衛生の推進	・ 休業労災発生件数 (国内)	0件	0件
	・ 特定検診実施率 (国内)	90%	90%
	・ 特定保健指導実施率 (国内)	55%	60%
チャレンジメーカーに相応しい人材の育成	・ 一人当たりの育成費用 (単体)	117千円	140千円
品質向上と製品安全の確保	・ 市場回収を伴う重大品質事故 (単体)	0件	0件
	・ 化学物質の使用に関する法令遵守・重大法令違反 (単体)	0件	0件
新規事業・新製品の創出	・ 特許出願件数 (単体)	(累計) 45件 (2022~2024年度)	(累計) 210件 (2022~2030年度)
	・ 外部機関との協業件数 (単体)	(累計) 10件 (2022~2024年度)	(累計) 35件 (2022~2030年度)
生産技術・生産効率の向上	・ 生産キャパシティ (単体)	(2021年度比) + 10%	(2021年度比) + 33%
DXによる事業変革	・ MI人材の育成 (単体)	9人	20人
	・ 全従業員へのDX教育の実施 (単体)	受講率100%	受講率100%
人権の尊重	・ 全従業員への人権・コンプライアンス研修の実施 (国内)	受講率100%	受講率100%
	・ 仕入先への「ESGに関するアンケート」の実施 (単体)	1回/年	1回/年
ステークホルダーとの対話	・ 投資家、既存株主との面談実施 (単体)	140社以上/年	200社以上/年
	・ 顧客、取引先への顧客満足度調査の実施 (単体)	1回/年	1回/年